Nikon

デジタルカメラ

COOLPIX P300

クールピクス P300

使用説明書

Jp

商標説明

- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDXC、SDHC、SDロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- PictBridgeロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）

(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

http://www.mpegla.comをご参照ください。

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は以下のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、以下の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

 使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
 発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
 発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
 保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
 保管注意	**ストラップが首に巻きつかないようにすること** **特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと** 首に巻き付いて窒息の原因となります。
 警告	**指定の電源（電池、本体充電ACアダプターまたはACアダプター）を使うこと** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
使用禁止	**充電時やACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠ 注意（カメラについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
 保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
 保管注意	**使用しないときは、電源をOFFにしてレンズを遮光し、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
 移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
 使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
 電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（電池、本体充電ACアダプターまたはACアダプター）を外すこと** 電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因になることがあります。 本体充電ACアダプターやACアダプターをお使いの際には、電源プラグをコンセントから抜いて、その後でカメラを取り外してください。火災の原因になることがあります。
 発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。
 禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
 放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります。

	付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

	電池を火に入れたり、加熱しないこと 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
	電池をショート、分解しないこと 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
	専用の充電器を使用すること 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
	Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL12は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池でCOOLPIX P300に対応しています。EN-EL12に対応していない機器には使用しないこと 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
	ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
	電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

	電池は幼児の手の届かないところに置くこと 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
	水につけたり、ぬらさないこと 液もれ、発熱の原因となります。
	変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
	充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
	電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
	電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

	電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告
（本体充電ACアダプターについて）

 分解禁止	**分解したり修理・改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
 接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
 プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
 水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
 使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
 警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると、火災の原因になります。
 使用禁止	**雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
 禁止	**ケーブルを傷つけたり、加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、むりに曲げたりしないこと** ケーブルが破損し、火災、感電の原因となります。
 感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因となります。
 禁止	**海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）や DC/AC インバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠注意
（本体充電ACアダプターについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置禁止	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
 禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

目次

使用説明書について

ニコンデジタルカメラCOOLPIX P300をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

●本文中のマークについて

マーク	説明
✔	カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
💡	カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。
📎	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
📖	関連情報を記載した参照ページを記載しています。

●表記について

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、およびSDXC メモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

📎 内蔵メモリーとSDカードについて

本機は、内蔵メモリーとSDカードの両方に対応しています。SDカードをカメラにセットしているときは、SDカードが優先して使用されます。内蔵メモリーを使用して、撮影、再生、削除、初期化などの操作をするときは、SDカードをカメラから取り出してください。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録できます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/support/

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、本体充電ACアダプター、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

ホログラムシール

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のLi-ion リチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

  http://www.nikon-image.com/support/manual/

  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトウェアなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトウェアなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、「オープニング画面」の「撮影した画像」（📖143）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

各部の名称

カメラ本体

1	ズームレバー .... 27 W：広角ズーム .... 27 T：望遠ズーム .... 27 ▦：サムネイル表示 .... 94 Q：拡大 .... 96 ?：ヘルプ 41	6	マイク（ステレオ）........105、118
2	コマンドダイヤル 9	7	フラッシュ 32
3	シャッターボタン .... 13、28	8	⚡（フラッシュポップアップ）レバー 33
4	電源スイッチ/電源ランプ ...19、153	9	セルフタイマーランプ .... 35 AF補助光 152
5	モードダイヤル 40	10	レンズ .... 162、181
		11	レンズバリアー

1	液晶モニター........................6、25
2	Ⓞ（決定）ボタン......................10
3	ロータリーマルチセレクター...10
4	▶（再生）ボタン.....................30
5	●（▸🎥 動画撮影）ボタン.......118
6	充電ランプ........................17、134 フラッシュランプ......................34
7	スピーカー....................106、126
8	三脚ネジ穴
9	MENU（メニュー）ボタン ..... 11、41、73、98、122、142
10	🗑（削除）ボタン ....31、106、126
11	ロックレバー......................14、22
12	バッテリー /SDカードカバー ....14、22
13	ストラップ取り付け部...............13
14	HDMIミニ端子.........................127
15	HDMI端子カバー......................127
16	USB/ オーディオビデオ出力端子 .... 127、130、136
17	端子カバー.......... 127、130、136
18	バッテリーロックレバー ....14、15
19	バッテリー室.............................14
20	SDカードスロット.....................22

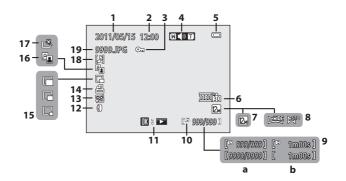
液晶モニターの表示内容

撮影、再生時の画面に表示される情報は、数秒経過すると消灯します（▢147）。
表示される情報は、カメラの設定や状態によって異なります。

撮影時

1	撮影モード※ ……24、40、41、62
2	マクロモード ……38
3	ズーム表示 ……27
4	AF表示 ……28
5	AE/AF-L表示 ……61
6	フラッシュモード ……32
7	調光補正 ……89
8	バッテリー残量表示 ……24
9	モーション検知表示 ……151
10	手ブレ補正表示 ……150
11	連写NR撮影 ……47
12	訪問先 ……144
13	日時未設定 ……170
14	デート写し込み ……149
15	動画の種類 ……123
16	HS動画の種類 ……124
17	画像モード ……74
18	かんたんパノラマ ……57
19	(a)記録可能コマ数（静止画）…24、75 (b)記録可能時間（動画）…118、125
20	内蔵メモリー表示 ……25
21	絞り値 ……63
22	AFエリア（マニュアル、中央時）……28、83
23	AFエリア（オート時）……83
24	AFエリア （顔認識時、ペット検出時）……36、56、83
25	AFエリア（ターゲット追尾時）……87
26	中央部重点測光範囲 ……78
27	シャッタースピード ……63
28	手持ち撮影/三脚撮影 ……44、49
29	ISO感度表示 ……34、81
30	露出補正値 ……39
31	露出インジケーター ……67
32	鮮やかさ ……71
33	色合い ……71
34	ホワイトバランス ……76
35	セルフタイマー ……35 笑顔自動シャッター ……36
36	連写モード ……79
37	AEブラケティング ……82
38	逆光（HDR）……45
39	パノラマ ……55

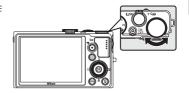
※　アイコンは、撮影モードによって異なります。

再生時

1	撮影日 20	11	かんたんパノラマ再生ガイド....59 動画再生ガイド........................ 126
2	撮影時刻 20	12	フィルター効果済み表示......... 114
3	プロテクト表示.........................102	13	美肌編集済み表示.................... 112
4	音量表示 ....106、126	14	プリント指定表示........................99
5	バッテリー残量表示...................24	15	スモールピクチャー ......116、117
6	動画の種類※.................................. 123	16	D-ライティング済み表示........ 111
7	画像モード※.................................... 74	17	簡単レタッチ済み表示 110
8	かんたんパノラマ表示...............59	18	音声メモ表示............................ 105
9	(a)画像の番号/全画像数 ....30 (b)動画の再生時間...................126	19	ファイル名............................... 168
10	内蔵メモリー表示......................30		

※ アイコンは、撮影時の設定によって異なります。

主なボタン操作

コマンドダイヤル

コマンドダイヤルを回すと、以下の操作ができます。

撮影時に使う

状態	内容	📖
モードダイヤルがPのとき	プログラムシフト量の設定	64
モードダイヤルがS、Mのとき	シャッタースピードの設定	65、67

再生時に使う

状態	内容	📖
拡大表示	拡大倍率の変更	96

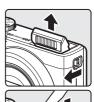
メニュー画面で使う

状態	内容	📖
撮影メニューまたはセットアップメニューの第一階層表示中	設定値の変更	12、73、142

フラッシュのポップアップと収納（⚡︎（フラッシュポップアップ）レバー）

⚡︎（フラッシュポップアップ）レバーをスライドすると、フラッシュがポップアップします。

- フラッシュの設定方法→「フラッシュを使う」（📖32）

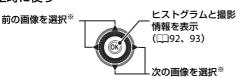
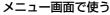
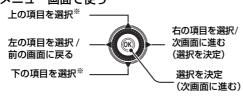
- フラッシュを使わないときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げて収納します。

ロータリーマルチセレクター

回転部を回すか、回転部の上（▲）、下（▼）、左（◀）、右（▶）、または🆗ボタンを押して操作します。

撮影時に使う

※1 撮影モードA、M時に、絞り値を設定します（📖66、67）。
　メニューの表示中は項目を選べます。

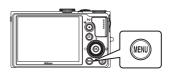
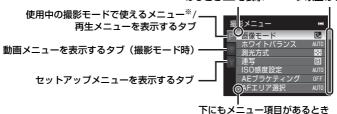
※2 P、S、A、Mモードのときに表示します。

再生時に使う

※ 回転部を回しても前後の画像を選べます。

メニュー画面で使う

※ 回転部を回しても項目を選べます。

MENU（メニュー）ボタン

MENUボタンを押すと、選んでいるモードに応じたメニューを表示して、メニュー項目を設定できます。

- 各メニュー項目を設定するには、ロータリーマルチセレクターを使います（□10）。

※ 表示されるタブは、選んでいる撮影モードによって異なります。

- （オート撮影）：オート撮影メニュータブ（□24）
- SCENE（シーン）：シーンメニュータブ（□41）
- （夜景）：夜景メニュータブ（□44）
- （逆光）：逆光メニュータブ（□45）
- P、S、A、M：撮影メニュータブ（□72）

メニュー画面のタブの切り換え方法

MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面では、左端のタブを選ぶと、選んだタブのメニューに切り換わります。

ロータリーマルチセレクターの◀を押してタブに移動します。

ロータリーマルチセレクターの▲▼を押してタブを選び、OKボタンまたは▶を押します。

選んだタブのメニューが表示されます。

メニューの基本操作

1 MENU（メニュー）ボタンを押す

2 ロータリーマルチセレクターの▲▼で項目を選び、▶または㊊ボタンを押す

- ロータリーマルチセレクターを回しても、項目を選べます（□10）。
- タブを切り換えたいときは、◀を押します（□11）。

ロータリーマルチセレクター

3 ▲▼で項目を選び、㊊ボタンを押す

- 設定が確定します。

4 設定が終わったら、MENU（メニュー）ボタンを押す

- メニューの表示が終了します。

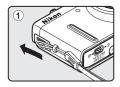
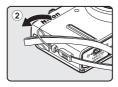
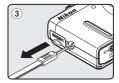
メニュー表示中のコマンドダイヤル操作について

撮影メニューまたはセットアップメニューの第一階層表示中（上記の手順2）にコマンドダイヤルを回すと、選んでいる項目の設定値を変更できます。

シャッターボタンの半押しと全押し

- 半押し：シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントと露出（シャッタースピードと絞り値）が合います。半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- 全押し：半押しの状態から、そのまま深く押し込む（全押しする）と、シャッターがきれます。シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあるので、ゆっくりと押し込んでください。

半押しすると、ピントと露出が固定　そのまま深く押し込んで撮影

ストラップの取り付け方

バッテリーを入れる

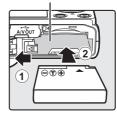
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12（リチウムイオン充電池）をカメラに入れます。

- ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してからお使いください（□16）。

1 ロックレバーを⊗◂側にスライドし（①）、バッテリー /SDカードカバーを開ける（②）

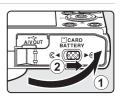
2 バッテリーを入れる

- バッテリーの側面でオレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押しながら（①）、奥まで差し込みます（②）。
- 奥まで差し込むと、バッテリーロックレバーでバッテリーが固定されます。

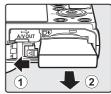
バッテリー室

✓ 逆挿入に注意

バッテリーの向きを間違えると、カメラを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SD カードカバーを閉じ（①）、ロックレバーを▸⊖側にスライドさせる（②）

- バッテリー /SDカードカバーが開いていると、カメラの電源をONにできません。カメラ内のバッテリーも充電できません。

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにして（□19）、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けます。

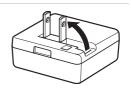
オレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと（①）、バッテリーが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

- カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

バッテリーについてのご注意

- リチャージャブルバッテリーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「危険」（□iv）、「警告」（□iv）、「注意」（□iv）の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意 バッテリーについて」（□164）をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- 長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。

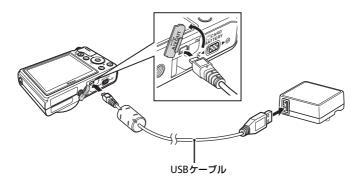
バッテリーを充電する

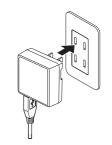
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12（リチウムイオン充電池）を入れたカメラを家庭用コンセントに接続して充電します。
接続には付属の本体充電ACアダプター EH-69PとUSBケーブル UC-E6を使います。

1 本体充電ACアダプターを用意する

2 バッテリーをカメラに入れる（📖14）

- 電源をONにしないでください。

3 付属のUSBケーブルでカメラと本体充電ACアダプターを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を外すときも、まっすぐに引き抜いてください。
- バッテリー /SDカードカバーは、閉じてください。

4 電源プラグをコンセントに差し込む

- カメラの充電ランプが緑色でゆっくり点滅し、充電が始まります。
- 残量がないバッテリーの場合、フル充電までの時間は約4時間です。

- コンセントに接続しているときの充電ランプの状態と意味は以下のとおりです。

充電ランプ	意味
ゆっくり点滅（緑色）	充電中です。
消灯	充電していません。ゆっくりした点滅（緑色）から消灯に変わると、充電の完了です。
速い点滅（緑色）	・使用可能な温度ではありません。周囲の温度が 5 ～ 35 ℃の室内で充電してください。 ・USB ケーブルまたは本体充電 AC アダプターが正しく接続されていないか、バッテリーの異常です。正しく接続し直すか、バッテリーを交換してください。

5 コンセントから本体充電AC アダプターを外し、USBケーブルを外す

本体充電ACアダプターについてのご注意

- 本体充電ACアダプター EH-69Pに対応している機器以外で使わないでください。
- EH-69P をお使いになるときは、「安全上のご注意」の「警告」（□v）、「注意」（□v）の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意 バッテリーについて」（□164）をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- EH-69Pは、家庭用電源のAC 100－240 V、50/60 Hz に対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。
- EH-69P はカメラ内のバッテリーを充電するための AC アダプターです。カメラを EH-69Pでコンセントに接続しているときは、カメラの電源はONにできません。
- EH-69P 以外の本体充電 AC アダプター、USB-AC アダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

AC電源について

- 別売のACアダプター EH-62F（□166）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給して撮影または再生ができます。
- EH-62F以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

パソコンや充電器で充電する

- COOLPIX P300をパソコンに接続してもEN-EL12を充電できます（□134、156）。
- 別売のバッテリーチャージャー　MH-65P（□166）を使うと、カメラを使わずにEN-EL12を充電できます。

電源をON/OFFするには

電源スイッチを押すと、電源がONになります。
電源ランプ（緑色）が点灯し、液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。
もう一度電源スイッチを押すと、電源はOFFになります。電源がOFFになると液晶モニターも、電源ランプも消灯します。

- 電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます（□30）。

節電機能について（オートパワーオフ）

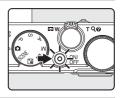
カメラを操作しない状態が続くと、液晶モニターが消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。

- 電源ランプの点滅中は、以下の操作で液晶モニターが再点灯します。
  - 電源スイッチ、シャッターボタン、▶ボタン、または●（動画撮影）ボタンを押す。
  - モードダイヤルを回す。
- 撮影時または再生時は、約1分（初期設定）で待機状態になります。
- 待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー（□141）の［**オートパワーオフ**］（□153）で変更できます。

表示言語と日時を設定する

ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

- 電源ランプが点灯し、液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。

2 ロータリーマルチセレクターの▲または▼で表示言語を選び、㊊ボタンを押す

ロータリーマルチセレクター

3 ▲または▼で［はい］を選び、㊊ボタンを押す

- 地域と日時の設定を中止するときは［**いいえ**］を選びます。

4 ◀ または ▶ で自宅のある地域（タイムゾーン）（📖146）を選び、㊊ボタンを押す

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）を導入している地域で、その期間中に日時を設定するときは、手順4の地域設定画面で▲を押して夏時間の設定をオンにします。

- オンにすると、画面上部に夏時間マークが表示されます。
- オフにするには、▼を押します。

5 ▲または▼で日付の表示順を選び、Ⓚボタンまたは▶を押す

6 ▲、◀、▼または▶で日時を合わせ、Ⓚボタンを押す

- 項目を選ぶ：ロータリーマルチセレクターを回すか、▶または◀を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**] に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：▲または▼を押します。コマンドダイヤル（□9）を回しても変更できます。
- 設定を完了する：[**分**] を選び、Ⓚボタンまたは▶を押します。
- 設定が完了すると、レンズが繰り出し、撮影画面になります。

日付の写し込みと日時の変更

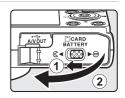
- 撮影時に日付を画像に写し込むときは、日時を設定した後にセットアップメニュー（□141）の［**デート写し込み**］を設定します（□149）。
- 内蔵時計の日時を変更するときは、セットアップメニュー（□141）の［**地域と日時**］（□144）で設定します。

SDカードを入れる

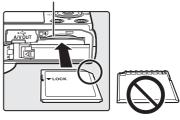
撮影したデータは、カメラの内蔵メモリー（約90 MB）、または市販のSDカード（📖167）のどちらかに記録します。

カメラにSDカードを入れるとSDカードに記録し、SDカードのデータを再生、削除、または転送します。内蔵メモリーを使うときは、SDカードを取り出します。

1 電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開ける

- カバーを開けるときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- カチッと音がするまで差し込みます。

SDカードスロット

逆挿入に注意

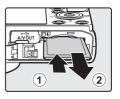
SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。 正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

SDカードを取り出すときは

電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開けます。

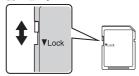
SD カードを指で軽く奥に押し込むと（①）、SD カードが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

- カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

SDカードの初期化

電源をONにしたときに右の画面が表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。**ただし、SDカードを初期化**（□154）**すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。
初期化するときは、ロータリーマルチセレクターで［**はい**］を選び、🆗ボタンを押します。確認画面が表示されたら［**初期化する**］を選び、🆗ボタンを押すと初期化が始まります。

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化（□154）してからお使いください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについてのご注意

SDカードのスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除を禁止して、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「Lock」を解除してください。

SDカードの取り扱い上のご注意

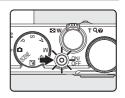
- SDカード以外のメモリーカードは使えません。
- 初期化中、画像の記録や削除中、パソコンとの通信時などには、以下の操作をしないでください。記録しているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - カードを着脱しないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - ACアダプターを外さないでください
- SDカードをパソコンで初期化（フォーマット）しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- 端子部を手や金属で触らないでください。
- ラベルやシールを貼らないでください。
- 高温になる車の中や直射日光の当たるところなどには置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところ、腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。

撮影の準備

ステップ1　電源をONにして（オート撮影）を選ぶ

（オート撮影）モードでは、細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

1 電源スイッチを押して電源をONにする

- レンズが繰り出し、液晶モニターが点灯します。

2 モードダイヤルをに合わせる

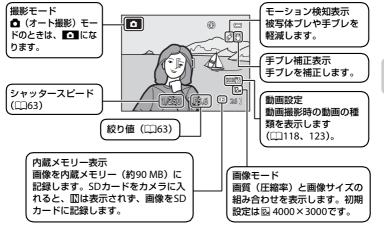
3 バッテリー残量表示と記録可能コマ数を確認する

バッテリー残量表示

表示	意味
	バッテリー残量はあります。
	バッテリー残量が少なくなりました。バッテリーの充電や交換の準備をしてください。
電池残量がありません	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。
記録可能コマ数は、内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量、画像モードによって異なります（74）。

（オート撮影）モードでの液晶モニター表示

- 撮影、再生時の画面に表示される情報は、数秒経過すると消灯します（147）。
- 節電による待機状態で液晶モニターが消灯しているとき（電源ランプ点滅中）は（153）、以下のボタンを押すと液晶モニターが再点灯します。
  → 電源スイッチ、シャッターボタンまたは●（動画撮影）ボタン

フラッシュについて

フラッシュを閉じているときは発光禁止に固定され、画面上部にが表示されます。暗いところや逆光などでフラッシュが必要なときは、フラッシュをポップアップしてください（33）。

（オート撮影）モードで使える機能

- フラッシュモード（32）の変更、セルフタイマー（35）、マクロモード（38）、および露出補正（39）の設定ができます。
- MENUボタンを押すと、撮影メニューの［**画像モード**］（74）で、画質（圧縮率）と画像サイズの組み合わせを設定できます。

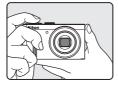
手ブレ補正とモーション検知について

- 詳しくは、セットアップメニュー（141）の［**手ブレ補正**］（150）、または［**モーション検知**］（151）をご覧ください。
- 三脚などでカメラを固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

簡単な撮影と再生―（オート撮影）モードを使う

ステップ2　カメラを構え、構図を決める

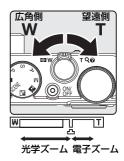
1　カメラをしっかりと構える

- カメラを両手でしっかりと持ってください。
- レンズやフラッシュ、AF補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。
- フラッシュを使って（□32）、縦位置で撮影するときは、フラッシュ発光部をレンズより上にしてください。

2　構図を決める

- 写したいもの（被写体）を画面の中央付近に合わせます。

ズームを使う

ズームレバーを回すと、光学ズームが作動します。被写体を大きく写したいときは**T**方向に回します。広い範囲を写したいときは**W**方向に回します。

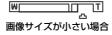
- 電源をON にしたときは、最も広角側になっています。
- ズームレバーを回すと液晶モニターの画面上部にズームの量が表示されます。

電子ズームについて

光学ズームを最も望遠側（光学ズームの最大倍率）にして、さらにズームレバーを**T**方向に回し続けると、電子ズームが作動します。
電子ズームは、光学ズームの最大倍率の約2倍まで拡大できます。

- 電子ズーム使用時は、AF エリアは表示されず、画面中央でピントが合います。

電子ズームと画質の劣化について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため、使用する画像モード（📖74）や電子ズーム倍率によって、画質が劣化します。
ズーム表示の凸マークは、静止画の撮影で画質の劣化が始まるズーム位置を示しています。このマークを越えてズーム倍率を上げると劣化が始まり、ズーム表示も黄色に変わります。凸マークの位置は画像サイズが小さいほど右に移動しますので、設定した画像モードで画質を劣化させずに静止画を撮影できるズーム位置を事前に確認できます。

画像サイズが小さい場合

- セットアップメニュー（📖141）の［**電子ズーム**］（📖152）で、電子ズームを作動しない設定にできます。

ステップ3　ピントを合わせてシャッターボタンを押す

1 シャッターボタンを半押しする

- 半押しする（□13）と、カメラがピントと露出（シャッタースピードと絞り値）を合わせます。半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- 画面中央の AF エリア表示に重なっている被写体にピントが合います。ピントが合うと、AF エリア表示が緑色に点灯します。

- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。ピントが合うとAF表示（□6）が緑色に点灯します。
- 半押しして、AF エリアまたは AF 表示が赤色に点滅したときはピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。

✔ 被写体との距離が近い場合

ピントが合わないときは、マクロモード（□38）またはシーンモードの［**クローズアップ**］（□52）での撮影をお試しください。

画像の記録についてのご注意

液晶モニターの「記録可能コマ数」が点滅しているときは、画像の記録中です。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。** 画像の記録中にSDカードやバッテリーを取り出すと、画像が記録されないことや、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアやAF表示が緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドや、同じ形状の窓が並んだビルなど）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、等距離にある別の被写体にピントを合わせて、フォーカスロック撮影をお試しください。

フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。

- フォーカスロックをしている間は被写体との距離を変えないでください。
- シャッターボタンを半押しすると、露出は固定されます。

ピントを合わせたい被写体にカメラを向ける

半押しする

AF エリアが緑色に点灯したら

半押ししたまま構図を変える

そのまま深く押し込む

AF補助光について

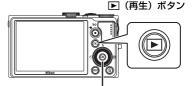
暗い場所などでは、シャッターボタンを半押ししたときにAF補助光（□152）が点灯することがあります。

ステップ4　撮影した画像を再生する/削除する

画像を再生する（再生モード）

▶（再生）ボタンを押す

ロータリーマルチセレクター

- 最後に撮影した画像が1コマ表示されます。
- ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀▶を押すと、前後の画像を表示できます。▲▼◀▶を押し続けると早送りできます。
  前の画像や次の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。
- 撮影に戻るには、もう一度 ▶ ボタンを押すか、シャッターボタン、または●（動画撮影）ボタンを押します。
- 内蔵メモリーの画像を再生しているときは、INが表示されます。SDカードをカメラに入れたときは、INは表示されず、SDカードの画像が再生されます。

内蔵メモリー表示

節電により液晶モニターが消灯したときは

電源ランプの点滅中は、▶ボタンを押すと液晶モニターが再点灯します（□153）。

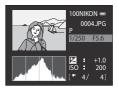
再生モードで使える機能

詳しくは、「いろいろな再生」（□92）または「画像の編集」（□108）をご覧ください。

撮影情報を表示する

再生モードの1コマ表示でⓀボタンを押すと、ヒストグラムと撮影情報を表示します（□93）。もう一度Ⓚボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

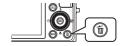
▶ボタンによる電源ON

電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。このとき、レンズは繰り出しません。

画像の再生について

顔認識（□85）またはペット検出（□56）して撮影した画像は、1コマ表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（[**連写**]（□79）、[**AEブラケティング**]（□82）または［**顔認識追尾**］（□87）を設定して撮影した画像を除く）。

不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示して🗑ボタンを押す

- 削除をやめるときは、MENUボタンを押します。

2 ロータリーマルチセレクターで削除方法を選び、OKボタンを押す

- ［**表示画像**］：表示している1コマまたは音声メモ（📖106）画像を削除します。
- ［**削除画像選択**］：複数の画像を選んで削除します。→「削除画像選択画面の操作方法」
- ［**全画像**］：すべての画像を削除します。

3 ［はい］を選び、OKボタンを押す

- 削除した画像は、元に戻せません。
- 削除をやめるときは、［**いいえ**］を選んでOKボタンを押します。

削除画像選択画面の操作方法

1 ロータリーマルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して削除したい画像を選び、▲で✓を表示する

- 選択を解除するときは、▼を押して✓を非表示にします。
- ズームレバー（📖4）を**T**（🔍）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと一覧表示に切り換わります。

2 削除したい画像すべてに✓を表示し、OKボタンを押して選択を決定する

- 確認画面が表示されます。画面の表示に従って操作します。

✓ 画像削除についてのご注意

- 削除した画像は元に戻せません。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- プロテクト設定した画像は、削除されません（📖102）。

🖉 撮影モードで画像を削除する

撮影時に🗑ボタンを押すと、直前に撮影した画像を削除できます。

フラッシュを使う

暗いところや逆光などでは、フラッシュをポップアップするとフラッシュ撮影ができます。フラッシュの発光モード（フラッシュモード）を撮影状況に合わせて設定できます。

- フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約 0.5 ～ 6.5 m、望遠側で約 0.5～2.5 mです（［**ISO感度設定**］が［**オート**］時）。

AUTO	**自動発光**
	暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減自動発光
	人物撮影に適しており、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減できます。
	発光禁止
	フラッシュは発光しません。
	強制発光
	被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。
	スローシンクロ
	自動発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。 夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景を写します。

フラッシュモードの設定について

- フラッシュモードの初期設定は、撮影モード（40）によって異なります。
  - （オート撮影）：AUTO 自動発光。
  - SCENE（シーン）：シーンによって異なります（42～56）。
  - （夜景）：発光禁止に固定。
  - （逆光）：強制発光に固定（［**HDR**］OFF時）、発光禁止に固定（［**HDR**］使用時）（45）
  - P、S、A、M：AUTO 自動発光。
- 他の機能と同時に使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（90）
- 以下の場合、フラッシュモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
  - 撮影モードP、S、A、Mの場合
  - （オート撮影）モードで、（赤目軽減自動発光）にして撮影した場合

フラッシュモードの設定方法

1 ⚡︎（フラッシュポップアップ）レバーをスライドする

- フラッシュがポップアップします。
- フラッシュを閉じているときは㊉（発光禁止）に固定されます。

2 ロータリーマルチセレクターの ⚡︎（フラッシュモード）を押す

- フラッシュモードの設定メニューが表示されます。

3 ロータリーマルチセレクターでモードを選び、OKボタンを押す

- 設定したフラッシュモードが表示されます。
- AUTO（自動発光）にすると［**モニター表示設定**］（□147）にかかわらず、AUTOは数秒間で消えます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

✔ フラッシュの収納

フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で軽く押し下げて、閉じてください。

⚠ ⓢ（発光禁止）にして撮影するときや、暗い場所で撮影するときのご注意

- 手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□141）の［**手ブレ補正**］（□150）を［**OFF**］にしてください。
- 撮影画面にISOが表示されることがあります。ISOが表示されたときは、ISO感度が自動的に上がっています。
- 暗いところなどで撮影するときなど、撮影状況によっては、ノイズを低減する機能が作動することがあります。ノイズ低減の機能が作動すると、画像の記録が終了するまでに時間がかかることがあります。

⚠ フラッシュ使用時のご注意

フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込むことがあります。このようなときは、フラッシュをⓢ（発光禁止）にするか、フラッシュを閉じて撮影するようおすすめします。

フラッシュランプについて

シャッターボタンの半押し時に、フラッシュの状態を確認できます。

- 点灯：撮影時にフラッシュが発光します。
- 点滅：フラッシュが充電中のため、撮影できません。
- 消灯：撮影時にフラッシュは発光しません。

バッテリー残量が少なくなると、フラッシュの充電中は液晶モニターが消灯します。

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「アドバンスト赤目軽減方式」を採用しています。
画像の記録時に赤目現象を検出すると、赤目部分を画像補正して記録します。
撮影する際は、以下にご注意ください。

- 画像の記録にかかる時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。

セルフタイマーを使う

記念撮影などで自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。タイマー時間は10秒と2秒から選べます。
セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□141）の［**手ブレ補正**］（□150）を［**OFF**］にしてください。

1 ロータリーマルチセレクターの ⏲（セルフタイマー）を押す

- セルフタイマーの設定メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［**10s**］または［**2s**］を選び、OKボタンを押す

- ［**10s**］（10秒）：記念撮影などに適しています。
- ［**2s**］（2秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 😊 を選ぶと、顔認識した人物の笑顔を検出して、カメラが自動的にシャッターをきります（□36）。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出が合います。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、シャッターがきれるまでの秒数が表示されます。作動中はセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

笑顔を撮影する（笑顔自動シャッター）

顔認識した人物の笑顔を検出して自動でシャッターをきることができます。撮影モード（40）が、（オート撮影）モード、シーンモードの［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、P、S、A、Mモードのときに使えます。

1 ロータリーマルチセレクターの（セルフタイマー）を押す

- セルフタイマーの設定メニューが表示されます。
- フラッシュモード、クリエイティブスライダー、露出、撮影メニューなどを設定するときは、を押す前に設定してください。

2 ロータリーマルチセレクターで（**笑顔自動シャッター**）を選び、ボタンを押す

- ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決める

- カメラを被写体に向けます。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が一瞬緑色になりピントが固定されます。
- 最大3 人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、最も画面の中央に近い顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の顔が一重枠で囲まれます。

4 自動的にシャッターがきれる

- カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます。
- シャッターがきれるたびに、顔認識と笑顔検出による自動撮影を繰り返します。

5 撮影を終了する

- 笑顔検出による自動撮影を終了するときは、電源をOFFにするか、手順2に戻って［**OFF**］を選びます。

笑顔自動シャッターについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 撮影条件などによっては、適切に顔の認識や笑顔の検出ができないことがあります。
- 「顔認識についてのご注意」→□86
- 他の機能と同時に使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□90）

笑顔自動シャッター使用時の節電機能について

笑顔自動シャッター使用時は、カメラを操作しないまま以下の状態が続くと、オートパワーオフ（□153）が作動して、電源がOFFになります。

- カメラが顔を認識しない。
- カメラが顔を認識していても、笑顔を検出できない。

セルフタイマーランプの点滅について

笑顔自動シャッターでは、カメラが顔を認識すると点滅し、シャッターがきれた直後は速く点滅します。

手動でシャッターをきるには

シャッターボタンを押してもシャッターがきれます。顔認識していないときは、画面中央の被写体にピントが合います。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→□29

マクロ（接写）モードを使う

最短約3 cmまで被写体に近づいて撮影できます。ただし、フラッシュ撮影時は、撮影距離が50 cm未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

1 ロータリーマルチセレクターの（マクロモード）を押す

- マクロモードの設定メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［ON］を選び、OKボタンを押す

- マークが表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 ズームレバーを操作して構図を決める

- 最短撮影距離はズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（マークより広角側）では、レンズ前約4 cmまでの被写体にピントを合わせられます。また、最も広角側のズーム位置では、レンズ前約3 cmまでの被写体にピントを合わせられます。

オートフォーカスについて

P、S、A、Mモードでは、［**AFモード**］（89）の設定を［**常時AF**］にすると、シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。常にピントを合わせる動作音がします。
それ以外の撮影モードでは、マクロモードがONになると、自動的に［**常時AF**］になります（シーンモードの［**ペット**］を除く）。

マクロモードの設定について

撮影モードP、S、A、Mの場合、変更したマクロモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

明るさを調整する（露出補正）

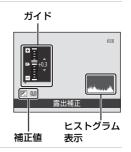
露出補正を設定して撮影すると、画像全体の明るさを明るく、または暗く調整できます。■（オート撮影）モード、またはシーンモードのときに使えます。

- P、S、A モードのときの露出補正は、クリエイティブスライダーで設定します（□69）。

1 ロータリーマルチセレクターの■（露出補正）を押す

- 露出補正のガイドとヒストグラムが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで補正値を選ぶ

- 被写体を明るくしたいとき：補正値を「＋」側に設定します。
- 被写体を暗くしたいとき：補正値を「－」側に設定します。

3 Ⓚボタンを押して補正値を決定する

- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。
- ［0.0］以外に設定すると、液晶モニターに■マークと補正値が表示されます。

4 シャッターボタンを押して撮影する

- 露出補正を解除するときは、手順1 に戻って補正値を［**0.0**］にします。

露出補正の設定について

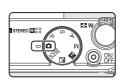
撮影モードがM（マニュアル露出）モード（□67）またはシーンモードの［**打ち上げ花火**］（□54）の場合、露出補正は使えません。

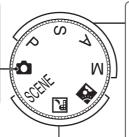
ヒストグラム表示について

ヒストグラムは、画像の明るさの分布を表すグラフです。フラッシュを使わない撮影で、露出を補正するときの目安になります。

- 横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。
- 露出補正を「＋」側にすれば山が右側に寄り、「－」側にすれば山が左側に寄ります。

撮影モードを選ぶ（モードダイヤル）

モードダイヤルを回してアイコン（図記号）を指標に合わせると、以下の撮影モードに切り換わります。

（オート撮影）モード（24）

細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。
はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

P、S、A、Mモード（62）

シャッタースピードや絞り値などを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しめます。
明るさ、鮮やかさ、または色合いをクリエイティブスライダーで調整できます。撮影メニューでいろいろな設定ができます（69）。

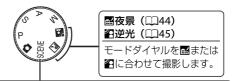
シーンモード（41）

撮影シーンを選ぶだけで、そのシーンに合った設定で撮影ができます。
SCENE（シーン）：16種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、そのシーンに合った設定で撮影ができます。
おまかせシーンにすると、カメラが撮影シーンを自動的に選ぶので、より簡単にシーンに合った撮影ができます。
スペシャルエフェクトでソフト、ノスタルジックセピアなどの効果を付けて撮影できます。
（夜景）：手ブレやノイズの少ない撮影をしたり、スローシャッターで撮影したりして、夜景の雰囲気を表現します。
（逆光）：逆光状態でフラッシュを強制発光して人物が陰にならないように撮影したり、HDRの機能を使って明暗差の大きい風景を撮影したりできます。

シーンに合わせて撮影する（シーンモード）

モードダイヤルやシーンメニューから、以下の撮影シーンを選ぶと、そのシーンに合った設定で撮影ができます。

夜景（📖44）
逆光（📖45）

モードダイヤルを夜景または逆光に合わせて撮影します。

SCENE（シーン）

MENU ボタンを押してシーンメニューを表示すると、以下の撮影シーンを選べます。

おまかせシーン（初期設定）（📖42）	トワイライト（📖51）
ポートレート（📖46）	クローズアップ（📖52）
風景（📖47）	料理（📖53）
スポーツ（📖48）	ミュージアム（📖54）
夜景ポートレート（📖49）	打ち上げ花火（📖54）
パーティー（📖50）	モノクロコピー（📖54）
ビーチ（📖50）	パノラマ（📖55）
雪（📖50）	ペット（📖56）
夕焼け（📖51）	スペシャルエフェクト（📖56）

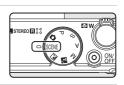
- フラッシュを使うシーンでは、⚡（フラッシュポップアップ）レバーをスライドして、フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- シーンメニューでシーンの種類を選び、ズームレバー（📖4）を **T**（❓）方向に回すと、そのシーンの説明（ヘルプ）を表示できます。元の画面に戻るには、もう一度ズームレバーを **T**（❓）方向に回します。

画像モードの設定

シーンモードのときに MENU ボタンを押すと、[**画像モード**]（📖74）を設定できます。画像モードの設定を変更すると、他の撮影モードでも同じ画像モードの設定になります。

カメラまかせでシーンに合わせて撮影する（おまかせシーン）

構図を決めるだけでカメラが以下の撮影シーンを自動的に判別するので、より簡単にシーンに合った撮影ができます。

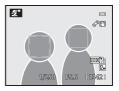
- ：オート撮影（一般的な撮影）
- ：ポートレート
- ：風景
- ：夜景ポートレート
- ：夜景
- ：クローズアップ
- ：逆光

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターで［おまかせシーン］を選び、OK ボタンを押す

シーンメニュー
- おまかせシーン
- ポートレート
- 風景 NORM
- スポーツ
- 夜景ポートレート
- パーティー
- ビーチ

- おまかせシーンになります。
- フラッシュが閉じていると、［**フラッシュが閉じています**］と表示されます。
- （フラッシュポップアップ）レバーをスライドして、フラッシュをポップアップしてください。

3 構図を決めて撮影する

- 撮影モードアイコンが切り換わります。
- シャッターボタンを半押しするとピントと露出が合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

おまかせシーンについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 撮影状況によっては、意図したシーンに切り換わらないことがあります。その場合は、（オート撮影）モード（□24）に切り換えるか、目的にあったシーン（□44）を選んで撮影してください。

おまかせシーンでのピント合わせについて

- おまかせシーンでは、カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→□85）。
- 撮影モードアイコンが や （クローズアップ）のときは、［**AFエリア選択**］（□83）の［**オート**］と同様に9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアにピントが合います。

おまかせシーンでの夜景、夜景ポートレートの撮影について

- おまかせシーンで （夜景）に切り換わったときは連続撮影し、画像を重ね合わせて1コマ記録します。
- おまかせシーンで （夜景ポートレート）に切り換わったときは、フラッシュモードが赤目軽減スローシンクロ固定になり、人物をフラッシュ撮影します（連写はしません）。
- 暗い場所では、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（□150）を［**OFF**］にしてください。

フラッシュについて

- フラッシュモード（□32）は、AUTO（自動発光）（初期設定）または（発光禁止）を選べます。
  - AUTO（自動発光）にすると、自動判別したシーンに合わせて、カメラが自動的にフラッシュモードを設定します。
  - （発光禁止）にすると、フラッシュをポップアップしたままでも、フラッシュは発光しません。
- フラッシュを発光したくないときは、フラッシュを閉じたままでも撮影できます。

おまかせシーンで使える機能

- セルフタイマー（□35）および露出補正（□39）の設定ができます。
- 笑顔自動シャッター（□36）は使えません。
- ロータリーマルチセレクターの（マクロモード）ボタン（□10、38）は使えません。

シーンを選んで撮影する（シーンモードの種類と特徴）

- モードダイヤルでシーンを選んで撮影できます（□41）。
- おまかせシーンについては、「カメラまかせでシーンに合わせて撮影する（おまかせシーン）」（□42）をご覧ください。
- 各シーンに記載している ⚡ はフラッシュをポップアップしているときのフラッシュモード（□32）の設定です。⏱はセルフタイマー（□35）/笑顔自動シャッター（□36）、🌷はマクロモード（□38）、☒は露出補正（□39）の設定です。

夜景

夜景の雰囲気を表現して撮影できます。
MENU ボタンを押すと、［**夜景**］から［**手持ち撮影**］または［**三脚撮影**］を選べます。

- ［**手持ち撮影**］（初期設定）：手持ちでも手ブレやノイズの少ない撮影ができます。
  - 撮影画面に アイコンが表示されます。
  - シャッターボタンを全押しすると連続撮影し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。

- ［**三脚撮影**］：三脚などで固定して撮影するときに使います。
  - 撮影画面に アイコンが表示されます。
  - ［**手ブレ補正**］（□150）は、セットアップメニュー（□141）の設定にかかわらず、自動で［**OFF**］になります。
  - シャッターボタンを全押しすると、スローシャッターで 1 コマ撮影します。

- 画面中央でピントを合わせます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（□6）が緑色に点灯します。
- AF 補助光（□152）は点灯しません。

⚡	⊛	⏱	OFF※1	🌷	OFF	☒	0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

逆光

逆光状態での撮影に使います。
MENUボタンを押すと、撮影シーンに合わせて、［**HDR**］からHDR（ハイダイナミックレンジ）合成の設定ができます。

- ［**HDR**］が［**OFF**］のとき（初期設定）：人物が陰にならないように、フラッシュを発光します。
  - フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
  - シャッターボタンを全押しすると、1 コマ撮影します。

- ［**HDR**］が［**レベル 1**］～［**レベル 3**］のとき：明暗差の大きい風景撮影に適しています。明暗差が小さいときは［**レベル 1**］が、明暗差が大きいときは［**レベル 3**］が適しています。
  - 撮影画面に HDR アイコンが表示されます。
  - シャッターボタンを全押しすると高速で連写し、以下の 2 コマを記録します。
    - HDR 合成していない画像
    - HDR 合成した画像（白飛びや黒つぶれを抑えた画像）
  - 記録画像の 2 コマ目が HDR 合成した画像になります。記録可能コマ数が 1 コマの場合は、撮影時に D- ライティング（📖111）で暗い部分を明るく補正し、1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。
  - 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。レベルの設定を低くすることで調整できます。

- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	フラッシュ/発光禁止※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	OFF	露出補正	0.0※3

※1［**HDR**］が［**OFF**］のときはフラッシュ（強制発光）に固定されます。
　［**HDR**］が［**OFF**］以外のときは発光禁止（発光禁止）に固定されます。
※2 セルフタイマーを使えます。
※3 変更できます。

いろいろな撮影

SCENE ➔ ポートレート

人物のポートレート撮影に使います。

- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について →85）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 美肌機能で人物の顔（最大 3 人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（46）。
- 顔を認識しないときは､画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

	※		OFF※		OFF		0.0※

※ 変更できます。

美肌機能についてのご注意

- ポートレートまたは夜景ポートレートで撮影した画像は、人物の顔（最大3人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（美肌機能）。そのため、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。
- 撮影条件によっては、撮影時の画面でカメラが顔を認識していても、美肌の効果が表れないことや、顔以外の部分が画像処理されることがあります。
- 美肌機能の度合いは設定できません。
- 撮影後にも、記録した画像に美肌の編集ができます（112）。

SCENE ➔ 風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。
シーンモードの［**風景**］を選ぶと表示される画面で、［**連写NR撮影**］または［**通常撮影**］を選べます。

- ［**連写 NR 撮影**］：ノイズを抑えたシャープな風景を撮影できます。
  - 撮影画面に NR アイコンが表示されます。
  - シャッターボタンを全押しすると高速で連写し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。

- ［**通常撮影**］（初期設定）：輪郭やコントラストを強調した画像を記録します。
  - シャッターボタンを全押しすると 1 コマ撮影します。

- 画面中央でピントを合わせます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（□6）が緑色に点灯します。
- AF 補助光（□152）は点灯しません。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※1	マクロ	OFF	露出補正	0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

SCENE ➔ 🏃 スポーツ

運動会などスポーツ写真を撮影するときに使います。動きのある被写体の一瞬の動きを連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

- 画面中央でピントを合わせます。シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- シャッターボタンを全押ししている間、約 8 コマ / 秒で最大 7 コマまで連写できます（画像モードが 12M［4000 × 3000］のとき）。
- ピントと露出、ホワイトバランスは 1 コマ目を撮影した条件に固定されます。
- 画像モード、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- AF 補助光（📖152）は点灯しません。

⚡	⊛	セルフタイマー	OFF	マクロ	OFF	☑	0.0※

※ 変更できます。

SCENE ➔ 夜景ポートレート

夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。背景の雰囲気を活かしながら人物をフラッシュ撮影します。シーンモードの［**夜景ポートレート**］を選ぶと表示される画面で、［**手持ち撮影**］または［**三脚撮影**］を選べます。

- ［**手持ち撮影**］：手持ちでも手ブレやノイズの少ない撮影ができます。
  - 撮影画面に アイコンが表示されます。
  - 背景が暗いシーンでは、シャッターボタンを全押しすると連続撮影し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 連写している間、被写体が動くと画像がゆがんだり、重なったり、ぼやけることがあります。

- ［**三脚撮影**］（初期設定）：三脚などで固定して撮影するときに使います。
  - 撮影画面に アイコンが表示されます。
  - ［**手ブレ補正**］（□150）は、セットアップメニュー（□141）の設定にかかわらず、自動で［**OFF**］になります。
  - シャッターボタンを全押しすると、スローシャッターで 1 コマ撮影します。

- フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- 電子ズームは使えません。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→□85）。
  - 複数の顔を認識したときは、最も カメラに近い顔にピントが合います。
  - 美肌機能で人物の顔（最大 3 人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（□46）。
  - 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。

フラッシュ	※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	OFF	露出補正	0.0※2

※1 赤目軽減で強制発光します。
※2 変更できます。

いろいろな撮影

SCENE ➔ パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。暗い場所では、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（□150）を［**OFF**］にしてください。

フラッシュ	赤目軽減※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	OFF	露出補正	0.0※3

※1 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。
※3 変更できます。

SCENE ➔ ビーチ

晴天の海や砂浜などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	AUTO※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	OFF※1	露出補正	0.0※1

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。

SCENE ➔ 雪

晴天の雪景色などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	AUTO※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	OFF※1	露出補正	0.0※1

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。

SCENE ➔ 夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（6）が緑色に点灯します。
- AF 補助光（152）は点灯しません。

			OFF※1		OFF		0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

SCENE ➔ トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（6）が緑色に点灯します。
- AF 補助光（152）は点灯しません。

			OFF※1		OFF		0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（150）を［**OFF**］にしてください。

SCENE ➔ クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。

- マクロモード（38）が ON になり、ズームが最も被写体に近づいて撮影できる位置まで自動的に移動します。
- 被写体に近づいて撮影できる距離は、ズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（ マークより広角側）では、レンズ前約4 cmまでの被写体にピントを合わせられます。また、最も広角側のズーム位置では、レンズ前約 3 cm までの被写体にピントを合わせられます。
- ［**AF エリア選択**］は［**マニュアル**］になり、ピントを合わせるエリア（AF エリア）を選べます（83）。 ボタンを押して、ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶ を押すと AF エリアが移動します。
  以下の設定をするときは、 ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - フラッシュモード、またはセルフタイマー
  - 露出補正
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（150）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

	※1		OFF※2		ON		0.0※3

※1 変更できます。フラッシュ撮影時は、撮影距離が50 cm未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

※2 セルフタイマーを使えます。

※3 変更できます。

SCENE ➔ 料理

料理の撮影に使います。

- マクロモード（□38）が ON になり、ズームが最も被写体に近づいて撮影できる位置まで自動的に移動します。
- 被写体に近づいて撮影できる距離は、ズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（△ マークより広角側）では、レンズ前約 4 cm までの被写体にピントを合わせられます。また、最も広角側のズーム位置では、レンズ前約 3 cm までの被写体にピントを合わせられます。

- 色合いを画面左のスライダー表示の範囲で調整できます。ロータリーマルチセレクターの ▲ を押すと赤み、▼ を押すと青みが増します。色合い調整の設定は、電源を OFF にしても記憶されます。
- ［**AF エリア選択**］は［**マニュアル**］になり、ピントを合わせるエリア（AF エリア）を選べます（□83）。Ⓚ ボタンを押して、ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶ を押すと AF エリアが移動します。
  以下の設定をするときは、Ⓚ ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - 色合い
  - セルフタイマー
  - 露出補正
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（□150）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※1	マクロ	ON	露出補正	0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

SCENE ➔ ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で撮影するときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- BSS(ベストショットセレクター)(79)を使って撮影できます。
- 手ブレしやすいため、[**手ブレ補正**]（150）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- AF 補助光（152）は点灯しません。

			OFF※1		OFF※2		0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

SCENE ➔ 打ち上げ花火

スローシャッターで、打ち上げ花火を撮影します。

- 遠景にピントが固定されます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示(6)が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（152）は点灯しません。

			OFF		OFF		0.0

SCENE ➔ モノクロコピー

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、マクロモード（38）を併用してください。
- 赤色、青色などの被写体を撮影すると、文字などが薄くなることがあります。

	※1		OFF※2		OFF※1		0.0※1

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、[**手ブレ補正**]（150）を［**OFF**］にしてください。

SCENE ➔ ⌘ パノラマ

パノラマ写真の撮影に使います。
シーンモードの⌘［**パノラマ**］を選ぶと表示される画面で、［**かんたんパノラマ**］または［**パノラマアシスト**］を選べます。

- ［**かんたんパノラマ**］（初期設定）：パノラマ写真をつくりたい方向にカメラを動かすだけで、カメラで再生可能なパノラマ写真を撮影できます。
  →「かんたんパノラマを使った撮影方法」（□57）
  →「かんたんパノラマで撮影した画像の再生方法」（□59）
- ［**パノラマアシスト**］：複数の画像を、つなぎ目を確認しながら撮影します。撮影した画像は、パソコンに転送してから付属のソフトウェア「**Panorama Maker 5**」（□133）でパノラマ写真に合成します。
  →「パノラマアシストを使った撮影方法」（□60）

フラッシュ	⊛※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	OFF※1	露出補正	0.0※3

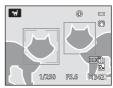
※1［**パノラマアシスト**］のときは、変更できます。
※2［**パノラマアシスト**］のときは、セルフタイマーを使えます。
※3 変更できます。

✓ パノラマ写真をプリントするときのご注意

パノラマ写真をプリントする場合、プリンターの設定によっては、全景をプリントできないことがあります。また、プリンターによっては、プリントできないことがあります。
詳しくは、お使いのプリンターの説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

SCENE ➔ ペット

犬または猫の撮影に使います。カメラが犬または猫の顔を検出し、その顔にピントを合わせます。

- 検出した顔は、二重枠のAFエリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が緑色になります。
  最大5匹の顔を同時に検出します。顔を複数検出したときは、画面内で最も大きい顔が二重枠の AF エリア表示で、それ以外の顔が一重枠で囲まれます。
- ペットを検出していないときは、画面中央の被写体でピントを合わせます。
- 電子ズームは使えません。
- AF補助光（📖152）は点灯しません。設定音、シャッター音（📖153）は鳴りません。
- ペットとの距離、ペットの動く速さ、顔の向きや明るさなど、撮影条件によっては、犬や猫を検出しないことや、犬や猫以外を検出することがあります。

			OFF		OFF※		0.0※

※ 変更できます。

SCENE ➔ スペシャルエフェクト

画像に効果を付けて撮影できます。MENUボタンを押すと、以下の効果を選べます。

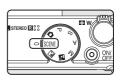
- ［**ソフト**］（初期設定）：やわらかな雰囲気にするために、画像全体を少しぼかします。
- ［**ノスタルジックセピア**］：セピア色でコントラストが低めの、昔の写真のような雰囲気にします。
- ［**硬調モノクローム**］：コントラストがはっきりした調子の白黒写真にします。
- ［**ハイキー**］：画像全体を明るいトーンで表現します。
- ［**ローキー**］：画像全体を暗いトーンで表現します。

- 画面中央でピントを合わせます。

	※1		OFF※2		OFF※1		0.0※1

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。

かんたんパノラマを使った撮影方法

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターで［パノラマ］を選び、OKボタンを押す

3 EASY［かんたんパノラマ］を選び、OKボタンを押す

4 撮影する範囲を STD［**標準 (180°)**］または WIDE［**ワイド (360°)**］から選び、OKボタンを押す

- カメラを横位置で構えたときの画像サイズ（ヨコ × タテ）は、以下の通りです。
  - STD［**標準（180°）**］：水平に移動時 3200 × 560、垂直に移動時 1024 × 3200
  - WIDE［**ワイド (360°)**］：水平に移動時 6400 × 560、垂直に移動時 1024 × 6400
- カメラを縦位置で構えたときの画像サイズは、移動方向とタテとヨコの組み合わせが入れ替わります。

いろいろな撮影

5 一番端の被写体に構図を合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

- ズーム位置は、広角側に固定されます。
- 画面に格子のガイドが表示されます。
- 画面中央でピントを合わせます。
- 露出補正（□39）が設定できます。
- 主要被写体にピントや露出が合わないときは、フォーカスロック撮影（□29）をお試しください。

6 シャッターボタンを全押しし、シャッターボタンから指を離す

- カメラを動かす方向を示す▷マークが表示されます。

7 カメラを4方向のいずれかに、まっすぐ、ゆっくりと動かし、撮影を開始する

ガイド

- カメラが動いている方向を検出すると、撮影が始まります。
- 現在の撮影地点を示すガイドが表示されます。
- 撮影地点を示すガイドが端まで到達すると、撮影が終了します。

カメラの動かし方の例

- 撮影者は動かずに、カメラを水平方向、または垂直方向に円弧を描くように動かします。
- パノラマ範囲が180°のときは約15秒以内、360°のときは約30秒以内を目安に、範囲の端から端まで動かしてください。

かんたんパノラマ撮影時のご注意

- 保存される画像の範囲は、撮影時に画面で見える範囲よりも狭くなります。
- 動かす速度が速すぎるときや、ブレが大きいときなどはエラーになります。
- パノラマ範囲の半分に到達する前に撮影が止まると、パノラマ画像は保存されません。
- パノラマ範囲の半分以上を撮影していて、終端に到達する前に撮影が終了したときは、撮影されなかった範囲がグレーの表示で記録されます。

かんたんパノラマで撮影した画像の再生方法

再生モードにして（□30、90）、かんたんパノラマで撮影した画像を1コマ表示し、OKボタンを押すと、画像の短辺を画面いっぱいに表示し、表示範囲を自動で移動（スクロール）します。

- 撮影したときと同じ方向で、スクロールします。
- ロータリーマルチセレクターを回すと、早送り/早戻しができます。

再生中は、画面上部に操作パネルが表示されます。ロータリーマルチセレクターの◀ ▶で操作パネルのアイコンを選び、OKボタンを押すと以下の操作ができます。

<table>
<tr><th>機能</th><th>アイコン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>巻き戻し</td><td>◀◀</td><td colspan="2">OKボタンを押している間、スクロールを早戻しします。</td></tr>
<tr><td>早送り</td><td>▶▶</td><td colspan="2">OKボタンを押している間、スクロールを早送りします。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一時停止</td><td rowspan="4">❚❚</td><td colspan="2">一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで以下の操作ができます。</td></tr>
<tr><td>◀❚❚</td><td>OKボタンを押している間、巻き戻しします。※</td></tr>
<tr><td>❚❚▶</td><td>OKボタンを押している間、スクロールします。※</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>自動スクロールを再開します。</td></tr>
<tr><td>再生終了</td><td>■</td><td colspan="2">1コマ表示に戻ります。</td></tr>
</table>

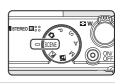
※ ロータリーマルチセレクターを回してもスクロールします。

かんたんパノラマ画像の再生についてのご注意

COOLPIX P300のかんたんパノラマ撮影以外で記録したパノラマ画像は、スクロール再生や拡大表示ができないことがあります。

パノラマアシストを使った撮影方法

画面中央でピントを合わせます。三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□141）の［**手ブレ補正**］（□150）を［**OFF**］にしてください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターで⌘［パノラマ］を選び、®ボタンを押す

3 ASSIST［パノラマアシスト］を選び、®ボタンを押す

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示す▷マークが表示されます。

4 ロータリーマルチセレクターでパノラマ方向を選び、®ボタンを押す

- 右方向につなげるときは▷、左方向は◁、上方向は△、下方向は▽を選びます。
- 選んだ方向に黄色い▷▷マークが移動し、®ボタンを押すと方向を決定します。決定した方向の▷（白色）が表示されます。

- フラッシュモード（□32）、セルフタイマー（□35）、マクロモード（□38）、露出補正（□39）を設定したいときは、ここで設定してください。
- もう一度®ボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

5 一番端の被写体に構図を合わせ、1コマ目を撮影する

- 撮影した画像が、画面の約1/3の部分に半透明で表示されます。

6 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

7 必要な画像を撮影し終わったら、OKボタンを押す

- 手順4の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー、マクロモード、露出補正は、1コマ目のシャッターをきる前に設定してください。1コマ目を撮影した後は変更できません。1コマ目を撮影した後は、［**画像モード**］（□74）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（□153）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AE/AF-L表示について

パノラマアシストモードでは、パノラマ写真を構成するすべての画像を、1コマ目と同じ露出、ホワイトバランスおよびピントで撮影します。
1コマ目を撮影すると、露出、ホワイトバランスとピントをロック（固定）したことを示すAE/AF-Lが画面に表示されます。

パノラマ写真に合成するには

撮影した画像はパソコンに転送して（□130）、Panorama Maker 5でパノラマ写真に合成できます（□133）。
Panorama Maker 5 は、付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってパソコンにインストールできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□168

露出を設定して撮影する（P、S、A、Mモード）

P、S、A、Mモードについて

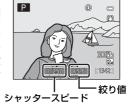
モードダイヤルを切り換えて、P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル露出）の4種類の露出モードを使って撮影できます。
シャッタースピードや絞り値を自分で設定できるほか、撮影メニュー（□72）でISO感度やホワイトバランスなどを変更したり、明るさ（露出補正）や色合い、鮮やかさをクリエイティブスライダー（□69）で調整したりして、さらに高度な撮影を楽しめます。

露出モード		内容	こんなときに
P	**プログラムオート（□64）**	シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動的にセットします。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えるプログラムシフト（□64）もできます。	ほとんどの撮影状況に適しています。
S	**シャッター優先オート（□65）**	設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値をセットします。	動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調するときなどに使います。
A	**絞り優先オート（□66）**	設定した絞り値に合わせて、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。	手前から奥まで鮮明に写したり、背景の描写をやわらげたいときなどに使います。
M	**マニュアル露出（□67）**	シャッタースピードも絞り値も撮影者が設定できます。	撮影意図に合わせて、露出をコントロールしたいときに使います。

P、S、A、Mモードで使える機能

- フラッシュモード（□32）の変更、セルフタイマー（□35）、およびマクロモード（□38）の設定ができます。
- MENUボタンを押すと、撮影メニュー（□72）を設定できます。

露出について

シャッタースピードと絞り値を調節して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞り値の組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。ISO 感度の設定（□81）を変えると、適正露出を得られるシャッタースピードと絞り値の範囲も変化します。

シャッタースピード

シャッタースピードが速いとき
1/1000秒

シャッタースピードが遅いとき
1/30秒

絞り値

絞り値が小さいとき
（絞りを開いたとき）
f/1.8

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）
f/8

P（プログラムオート）

シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動的にセットします。

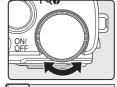
1 モードダイヤルをPに合わせる

2 構図を決めて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大 9 カ所）（□83）。

プログラムシフトについて

P（プログラムオート）で撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は、液晶モニター左上のP表示の横にプログラムシフトマーク（✱）が表示されます。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さく設定したい）場合や、動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きく設定したい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク（✱）が消えるまでコマンドダイヤルを回してください。モードダイヤルを切り換えたり、電源をOFFにしても、プログラムシフトを解除できます。

✔ P（プログラムオート）撮影時のご注意

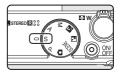
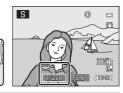
被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、適切な露出が得られない場合があります。このときにシャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示と絞り値表示が点滅します。ISO感度（□81）などの設定を変更すると適切な露出が得られることがあります。

シャッタースピードについて

- 絞り値がf/1.8（開放絞り）またはf/8のときは、シャッタースピードが1/1600秒まで設定されます。
- シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□91）。

S（シャッター優先オート）

設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値をセットします。

1 モードダイヤルをSに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□83）。

S（シャッター優先オート）撮影時のご注意

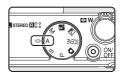
被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定したシャッタースピードでは適切な露出が得られないことがあります。このときに、シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示が点滅します。設定したシャッタースピードを変えてください。

シャッタースピードについて

- 絞り値がf/1.8（開放絞り）のときは、シャッタースピードが1/1600秒まで設定されます。
- シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□91）。

A（絞り優先オート）

設定した絞り値に合わせて、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。

1 モードダイヤルをAに合わせる

2 ロータリーマルチセレクターを回して、絞り値（開放絞り～最小絞り）を設定する

- 絞り値は、f/1.8～8(広角側)、f/4.9～7.8(望遠側)の範囲で設定できます。

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAF エリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAF エリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□83）。

A（絞り優先オート）撮影時のご注意

被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定した絞り値では適切な露出が得られないことがあります。このときにシャッターボタンを半押しすると、絞り値表示が点滅します。設定した絞り値を変えてください。

シャッタースピードについて

- 絞り値がf/1.8（開放絞り）またはf/8のときは、シャッタースピードが1/1600秒まで設定されます。
- シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□91）。

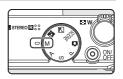
絞りとズームについて

絞り値（F値）とはレンズの明るさを示す値です。レンズの絞り値は、数値が小さくなるほど明るくなり、大きくなるほど暗くなります。レンズの一番明るい絞り値を「開放絞り」といい、一番暗い絞り値を「最小絞り」といいます。このカメラのズームレンズはズームすると、f/1.8–4.9 の範囲で開放絞りが変化します。絞り値は、望遠側にズームすると大きく（暗く）なり、広角側にズームすると小さく（明るく）なります。

M（マニュアル露出）

シャッタースピードも絞り値も撮影者が設定できます。

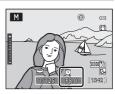
- シャッタースピードを最大1/2000～8秒の範囲で設定できます。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

- 設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測定した適正露出値の差が液晶モニターの露出インジケーターに表示されます。
- 設定された露出値とカメラの測光した適正露出値の差は、露出インジケーターに－2 EVから+2 EVの範囲で1/3段ごとに表示されます。
  図は露出が1段オーバーのときの例です。

露出インジケーター

3 ロータリーマルチセレクターを回して、絞り値を設定する

- 必要に応じて、手順2～3を繰り返してシャッタースピードと絞り値を調整します。

4 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□83）。

ISO感度についてのご注意

［**ISO感度設定**］（□81）を［**オート**］（初期設定）または［**感度制限オート**］に設定していると、ISO感度はISO 160に固定されます。

シャッタースピードについて

- 絞り値がf/1.8（開放絞り）のときは、シャッタースピードが1/1600秒まで設定されます。
- シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□91）。

明るさ、鮮やかさ、色合いを調整する(P、S、A、Mモード)

撮影モードP、S、A、Mのときにロータリーマルチセレクターの▶（☒）を押すと、クリエイティブスライダーで明るさ（露出補正）、鮮やかさ、および色合いを調整して撮影できます。

☒ 明るさ (露出補正)

画像全体を明るくしたいときや暗くしたいときに使います。

- 撮影モードが M（マニュアル露出）モードの場合、☒ 明るさ（露出補正）は使えません。

鮮やかさ

画像全体の鮮やかさを調整したいときに使います。

色合い

画像全体の色合いを調整したいときに使います。

クリエイティブスライダーの操作方法

1 ロータリーマルチセレクターの▶（☒）を押す

- クリエイティブスライダーが表示されます。

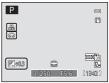
いろいろな撮影

2 明るさ、鮮やかさ、または色合いを調整する

- ロータリーマルチセレクターを以下のように使います。
  - ▲▼：スライダーが動きます。画面で効果を確認しながら調整できます。コマンドダイヤルを回しても調整できます。
  - ◀ ▶：明るさ（露出補正）、鮮やかさ、色合いの各項目を切り換えられます。ロータリーマルチセレクターを回しても切り換えられます。
- 各項目について詳しくは、以下をご覧ください。
  - 「明るさを調整する（露出補正）」（□71）
  - 「鮮やかさを調整する（彩度調整）」（□71）
  - 「色合いを調整する（ホワイトバランス調整）」（□71）
- クリエイティブスライダーの効果をオフにするときは、◀ ▶でRを選び、OKボタンを押します。

3 調整が終わったら、◀ ▶で☒を選び、OKボタンを押す

- 手順2でOKボタン（R選択時を除く）またはシャッターボタンを押しても、効果の度合いを決定できます。決定すると撮影画面に戻ります。

- 明るさを調整すると、マークと補正値が表示されます。
- 鮮やかさを調整すると、マークが表示されます。
- 色合いを調整すると、マークが表示されます。

4 シャッターボタンを押して撮影する

クリエイティブスライダーの設定について

明るさ（露出補正）、鮮やかさ、または色合いの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

明るさを調整する（露出補正）

画像全体の明るさを調整します。

- 被写体を明るくしたいとき：スライダーを「＋」側に設定します。
- 被写体を暗くしたいとき：スライダーを「－」側に設定します。

ヒストグラム表示について

詳しくは、「ヒストグラム表示について」（□39）をご覧ください。

鮮やかさを調整する（彩度調整）

画像全体の鮮やかさを調整します。

- スライダーを上方に動かすほど画像全体の鮮やかさが増します。下方に動かすほど鮮やかさが減ります。

色合いを調整する（ホワイトバランス調整）

画像全体の色合いを調整します。

- スライダーを上方に動かすほど画像全体の赤みが増します。下方に動かすほど青みが増します。

ホワイトバランス調整のご注意

クリエイティブスライダーで色合いを調整したときは、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］（□76）は設定できません。

撮影メニューを使う（P、S、A、Mモード）

撮影モードP、S、A、Mで撮影するときは、以下の撮影メニューを設定できます。

画像モード □74

記録時の画像モード（画像の大きさと圧縮率の組み合わせ）を選びます。他の撮影モードのメニューでも設定できます。

ホワイトバランス □76

画像を見た目に近い色で記録するように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。

測光方式 □78

カメラが被写体の明るさを測る方式を設定します。

連写 □79

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）などを設定できます。

ISO感度設定 □81

被写体の明るさなどに応じて、ISO感度を設定します。

AEブラケティング □82

露出を少しずつずらした連続撮影を設定します。

AFエリア選択 □83

オートフォーカスでピント合わせをするエリアの決め方を設定します。

AFモード □89

ピントの合わせ方を設定します。

調光補正 □89

フラッシュの発光量を補正します。

撮影メニューの表示方法

モードダイヤルをP（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）またはM（マニュアル露出）に合わせます。
MENUボタンを押して、撮影メニューを表示します。

- メニューの選択と設定には、ロータリーマルチセレクターを使います（🕮10）。
- 撮影メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

同時に設定できない機能について

複数の機能を同時に設定できないことがあります（🕮90）。

メニューの操作について

撮影メニューの第一階層表示中にコマンドダイヤルを回すと、選んでいる項目の設定値を変更できます。

画像モード（画質/画像サイズ）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 画像モード

記録する画像の大きさと、画質（圧縮率）の組み合わせを選びます。画像の用途や内蔵メモリー /SDカードの残量に合わせて設定してください。
画像サイズの大きい画像モードほど、大きくプリントするのに適していますが、記録できるコマ数は少なくなります。

画像モード	画像サイズ（ピクセル）	内　容
12M★ 4000×3000★	4000×3000	12M よりも高画質な画像になります。圧縮率は約1/4です。
12M 4000×3000（初期設定）	4000×3000	ファイルサイズと画質のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像モードです。圧縮率は約1/8です。
8M 3264×2448	3264×2448	
5M 2592×1944	2592×1944	
3M 2048×1536	2048×1536	12M、8M、5M よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。圧縮率は約1/8です。
PC 1024×768	1024×768	パソコンのモニターに表示するときに適しています。圧縮率は約1/8です。
VGA 640×480	640×480	電子メールへの添付や画面の縦横比が4:3のテレビへの表示に適しています。圧縮率は約1/8です。
16:9 9M 3968×2232	3968×2232	縦横比が16:9の画像を撮影できます。圧縮率は約1/8です。

画像モードの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□6～8）。

画像モードの設定について

- 撮影モードP、S、A、M以外の撮影モードでも、MENUボタンを押すと設定できます。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□90）

記録可能コマ数

内蔵メモリーや4 GBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像モード	内蔵メモリー（約90 MB）	SDカード※1（4 GB）	プリント時の大きさ※2
4000×3000★	14コマ	約620コマ	約34×25 cm
4000×3000	26コマ	約1110コマ	約34×25 cm
3264×2448	39コマ	約1650コマ	約28×21 cm
2592×1944	61コマ	約2560コマ	約22×16 cm
2048×1536	96コマ	約4020コマ	約17×13 cm
1024×768	299コマ	約12000コマ	約9×7 cm
640×480	813コマ	約30100コマ	約5×4 cm
3968×2232	35コマ	約1500コマ	約34×19 cm

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、画面には「9999」と表示されます。

※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cmで計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

ホワイトバランス

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整が必要です。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［**オート**］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

AUTO オート（初期設定）

カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。

PRE プリセットマニュアル

特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（□77）をご覧ください。

晴天

晴天の屋外での撮影に適しています。

電球

白熱電球の下での撮影に適しています。

蛍光灯

蛍光灯の下での撮影に適しています。

曇天

曇り空の屋外での撮影に適しています。

フラッシュ

フラッシュを使う撮影に適しています。

ホワイトバランスの設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**オート**］のときは、何も表示されません。

ホワイトバランスについてのご注意

- クリエイティブスライダーで色合いを調整した場合（□71）、この機能は設定できません。
- ［**オート**］、［**フラッシュ**］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを発光禁止（発光禁止）に設定してください（□32）。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□90）

いろいろな撮影

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明下（赤みがかった照明など）で撮影した画像を、普通の照明下で撮影したように見せたいときなどに使います。
以下の手順で、撮影する照明下のホワイトバランス値を測定して、撮影します。

1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 撮影メニューを表示し（□73）、ロータリーマルチセレクターで［**ホワイトバランス**］の PRE［**プリセットマニュアル**］を選び、ⓚボタンを押す

- レンズが測定用のズーム位置になります。

3 ［**新規設定**］を選ぶ

- 前回測定したホワイトバランス値を使いたいときは、［**前回の設定**］を選んでⓚボタンを押します。ホワイトバランスが前回の値に設定されます。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を収める

測定窓

5 ⓚボタンを押して、ホワイトバランス値を測定する

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます（画像は記録されません）。

プリセットマニュアルについてのご注意

フラッシュ発光時のホワイトバランス値は測定できません。フラッシュ撮影時は、［**ホワイトバランス**］を［**オート**］または［**フラッシュ**］に設定してください。

いろいろな撮影

測光方式

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 測光方式

露出を合わせるため、被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。
カメラが 測光する方式を設定します。

マルチパターン（初期設定）	
	画面の広い領域を測光します。 さまざまな撮影状況で適正な露出が得られます。通常の撮影では、マルチパターン測光をおすすめします。
中央部重点	
	画面に表示されている中央部重点測光範囲に重点を置いて測光します。ポートレート撮影など、重点的に画面中央部に露出を合わせたいときなどに使います。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（□29）をお使いください。

測光方式についてのご注意

- 電子ズーム作動中は、［**測光方式**］は［**中央部重点**］になります。ただし、測光範囲は表示されません。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□90）

測光方式表示について

［**測光方式**］を［**中央部重点**］に設定すると、測光範囲が表示されます（□6）。

連写

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 連写

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）などを設定できます。

S 単写（初期設定）

1コマずつ撮影します。

連写

シャッターボタンを全押ししている間、約8コマ/秒で連写できます（画像モードが 12M［4000×3000］のとき）。シャッターボタンから指をはなすか、7コマ連写すると、撮影を終了します。

BSS BSS（ベストショットセレクター）

暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。
シャッターボタンを全押ししている間、連写を続け（最大10コマ）、撮影した画像の中から最も鮮明に撮れている1コマをカメラが自動的に選んで記録します。

マルチ連写

シャッターボタンを1回全押しすると約30コマ/秒で16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像として記録します。

- 記録される画像モードは 5M（画像サイズ：2560 × 1920 ピクセル）に固定されます。
- 電子ズームは使えません。

120 高速連写 120 fps

シャッターボタンを1回全押しすると、約1/125秒以上の高速シャッタースピードで60コマ連写します。

- 記録される画像モードは 1M（画像サイズ：1280 × 960 ピクセル）に固定されます。

60 高速連写 60 fps

シャッターボタンを1回全押しすると、約1/60秒以上の高速シャッタースピードで60コマ連写します。

- 記録される画像モードは 1M（画像サイズ：1280 × 960 ピクセル）に固定されます。

連写の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**単写**］のときは、何も表示されません。

連写についてのご注意

- 連続撮影するときは、フラッシュは使えません。ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。
- 画像モード、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。➝「同時に設定できない機能」（📖90）

BSSについてのご注意

［**BSS**］は静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

マルチ連写についてのご注意

蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの高速で明滅する照明下では、画像に横帯が発生したり、明るさや色合いにばらつきが発生したりすることがあります。

高速連写についてのご注意

- 撮影後の画像の記録に時間がかかります。記録が終了するまでの時間は、撮影コマ数、SDカードへの書き込み速度などによって異なります。
- ISO感度が上がって、撮影した画像がざらつくことがあります。
- 晴天下では適正な露出が得られない（露出オーバーになる）ことがあります。
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの高速で明滅する照明下では、画像に横帯が発生したり、明るさや色合いにばらつきが発生したりすることがあります。

ISO感度設定

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ ISO感度設定

ISO感度を高くすると、より少ない光量で撮影できます。
ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体の動きによるブレを軽減しやすくなります。

- ISO感度を高くすると、暗い被写体の撮影、フラッシュを使わない撮影、望遠側での撮影などに効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

オート（初期設定）

明るい場所ではISO 160になり、暗い場所では自動的にISO 1600までISO感度が高くなります。

感度制限オート

カメラが自動的にISO 感度を変更するときの範囲を［**ISO 160-400**］（初期設定）、［**ISO 160-800**］から選べます。選んだ範囲の上限値以上にISO 感度は上がりません。ISO 感度の上限値を設定することで、画像のざらつきを抑える効果があります。

160、200、400、800、1600、3200

ISO感度を選んだ値に固定します。

ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。

- ［**オート**］に設定した場合、ISO 160で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（□34）。
- ［**感度制限オート**］に設定したときはA ISOマークとISO感度の上限値が表示されます。

ISO感度設定についてのご注意

- M（マニュアル露出）モードのときに［**オート**］または［**感度制限オート**］に設定すると、ISO感度はISO 160に固定されます。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□90）

AEブラケティング

P、S、Aに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ AEブラケティング

露出（明るさ）を自動的に変えながら連続撮影できます。画像の明るさの調整が難しい場合の撮影に効果的です。

±0.3

0、－0.3、＋0.3の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。

±0.7

0、－0.7、＋0.7 の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。

±1.0

0、－1.0、＋1.0 の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。

OFF（初期設定）

AEブラケティングを行いません。

AEブラケティングの設定は、撮影時の画面で確認できます（📖6）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

AEブラケティングについてのご注意

- M（マニュアル露出）モードの場合、［**AEブラケティング**］は使えません。
- 露出補正（📖39）と［**AEブラケティング**］の［±**0.3**］、［±**0.7**］、［±**1.0**］のいずれかを同時に設定すると、補正量を加算します。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖90）

AFエリア選択

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ AFエリア選択

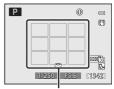
オートフォーカスでピント合わせをするエリアの決め方を設定します。

顔認識オート

カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について➞📖85）。
複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AFエリア選択が［**オート**］になり、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。

AFエリア

AUTO　オート（初期設定）

9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。
シャッターボタンを半押しするまで、AFエリアは表示されません。
半押しすると、ピントが合ったAFエリアが画面に表示されます（最大9カ所）。

AFエリア

マニュアル

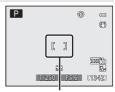
画面内の99カ所から、ピントを合わせたいエリアを自分で選びます。比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合に適しています。
ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀▶を押して、画面に表示されているAFエリアを、ピントを合わせたい位置に動かしてから撮影します。

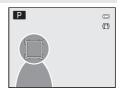
- 以下の設定をするときは、OK ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - フラッシュモード、マクロモード、またはセルフタイマー
  - 明るさ（露出補正）、鮮やかさ、または色合い

  もう一度OKボタンを押すと、再びAFエリアを選べる状態になります。

AFエリア
選択可能エリア

いろいろな撮影

[■]	**中央**
	画面中央の被写体にピントが合います。 AFエリアが画面中央に常に表示されます。

⊕	**ターゲット追尾**
	ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AF エリアが被写体を追いかけて移動します（ターゲット追尾撮影と顔認識追尾撮影について→📖87）。

☺	**顔認識追尾**
	カメラが人物の顔を認識すると、自動的にその人物を追いかける被写体として登録し、顔認識追尾を開始します（ターゲット追尾撮影と顔認識追尾撮影について→📖87）。

AFエリア選択についてのご注意

- 電子ズーム使用時は、［**AFエリア選択**］の設定にかかわらず、画面中央でピント合わせを行います。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（📖29）の撮影では、ピントが合わないことがあります。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖90）

顔認識撮影について

人物の顔にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。以下の場合は、顔認識機能が働きます。

- ［**AFエリア選択**］が［**顔認識オート**］のとき（□83）
- シーンモードが［**おまかせシーン**］（□42）、［**ポートレート**］（□46）または［**夜景ポートレート**］（□49）のとき
- 😊（笑顔自動シャッター）を設定したとき（□36）

※ 顔認識追尾については「動く被写体にピントを合わせて撮影する（ターゲット追尾、顔認識追尾）」（□87）をご覧ください。

1 構図を決める

- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれます。

- 複数の顔を認識したときは、撮影モードによって以下のように動作が変わります。

撮影モード	二重枠で囲まれる顔	認識する顔の数
P、S、A、Mモード（［**顔認識オート**］）	カメラに最も近い顔 ※他の顔は一重枠	最大12人
シーンモードの［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］		
😊（笑顔自動シャッター）	画面中央に最も近い顔 ※他の顔は一重枠	最大3人

いろいろな撮影

2 シャッターボタンを半押しする

- 二重枠で囲まれた顔にピントが合います。二重枠が緑色になりピントが固定されます。
- 二重枠が点滅しているときは、顔にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- シャッターボタンを全押しすると、シャッターがきれます。
- （笑顔自動シャッター）では、シャッターボタンを押さなくても、カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます（□36）。

顔認識についてのご注意

- ［**顔認識オート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、［**AFエリア選択**］は、［**オート**］になります。
- シーンモードの［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- 顔の向きなど撮影条件によっては、顔を認識できないことがあります。また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□29）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、AF エリアを［**マニュアル**］または［**中央**］にするか、撮影モードをオート撮影モードなどに切り換え、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（□29）をお試しください。
- 顔認識して撮影した画像は、1コマおよびサムネイル表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（［**連写**］（□79）、［**AEブラケティング**］（□82）または［**顔認識追尾**］（□87）を設定して撮影した画像を除く）。

動く被写体にピントを合わせて撮影する（ターゲット追尾、顔認識追尾）

動きのある被写体の撮影をするときに使います。

- ［**ターゲット追尾**］では、ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AFエリアが被写体を追いかけて移動します。
- ［**顔認識追尾**］では、カメラが人物の顔を認識すると、自動的にその顔を被写体として登録し、AFエリアが顔を追いかけて移動します。

1 撮影メニューを表示し（□73）、ロータリーマルチセレクターで［**AFエリア選択**］を選び、Ⓚボタンを押す

2 ［ターゲット追尾］または ［顔認識追尾］を選び、Ⓚボタンを押す

- 画面中央に白色の枠が表示されます。

3 被写体を登録する

- ［**ターゲット追尾**］の場合、ピントを合わせたい被写体に画面中央の枠を合わせ、Ⓚボタンを押します。
  - 被写体が登録されます。
  - 枠が赤色で表示されたときは、被写体にピントを合わせられません。構図を変えて、もう一度被写体を登録してください。
- ［**顔認識追尾**］の場合、カメラが構図内に人物の顔を認識したときは、自動的にその人物が被写体として登録されます。
  - 顔を検出していないときにⓀボタンを押すと、画面中央の被写体が登録されます。
- 被写体が登録されると、黄色いAFエリア表示で囲まれ、被写体を追いかけて移動します。
- ターゲットを変えたいときは、Ⓚボタンを押して現在の登録を解除してください。
- カメラがターゲットを見失ってAFエリア表示が消えたときは、もう一度被写体を登録してください。

ターゲット追尾のとき

顔認識追尾のとき

いろいろな撮影

4 シャッターボタンを押して撮影する

- シャッターボタンを半押しして、AFエリアでピントが合うと、AFエリア表示が緑色になり、ピントが固定されます。
- AFエリア表示が点滅したときは、被写体にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- AF エリアが表示されていない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

ターゲット追尾についてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- ズーム位置、フラッシュモード、クリエイティブスライダーまたはメニューは、被写体を登録する前に設定してください。被写体を登録した後に設定を変更すると、被写体の登録が解除されます。
- 被写体の動きが速いときや手ブレが大きいとき、類似した被写体がある場合など、撮影条件によっては、被写体をターゲットに登録できないことや追尾できないこと、または別の被写体を追尾することがあります。被写体の大きさや明るさなどによっても、適切にターゲット追尾できないことがあります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□29）の撮影では、AFエリア表示が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、AFエリアを［**マニュアル**］または［**中央**］にするか、撮影モードをオート撮影モードなどに切り換え、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（□29）をお試しください。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□90）

顔認識追尾についてのご注意

- 追尾するのは1人です。カメラが複数の顔を同時に認識したときは、画面の中央に近い顔を優先して追尾します。
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識して登録するかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 顔の向きなど撮影条件によっては、適切に顔を認識できないことがあります。また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている

AFモード（オートフォーカスモード）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ AFモード

ピントの合わせ方を設定します。

AF-S	**シングルAF（初期設定）**
	シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。
AF-F	**常時AF**
	シャッターボタンを半押しするまで、常にピント合わせを繰り返します。動きのある被写体の撮影に適しています。常にピントを合わせる動作音がします。 ・［**顔認識追尾**］（□87）時は、追尾を開始すると常時 AF になります。

AFモードについてのご注意

他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□90）

動画のAFモードについて

動画撮影時のAFモードは、動画メニュー（□122）の［**AFモード**］（□125）で設定します。

調光補正

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 調光補正

背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに、フラッシュの発光量を補正できます。

－0.3～－2.0
－0.3～－2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が少なくなります。被写体に光が強く当たりすぎないよう発光量を少なくします。
0.0（初期設定）
調光補正を行いません。
+0.3～+2.0
0.3～2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が多くなります。構図の中心となる被写体をより明るく照らすように発光量を多くします。

調光補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**0.0**］のときは、何も表示されません。

同時に設定できない機能

フラッシュモード、マクロモード、セルフタイマー /笑顔自動シャッター、クリエイティブスライダー、撮影メニューには、他の機能と組み合わせて使えない設定があります。

制限される機能	設定	内容
フラッシュモード	連写（□79）	［**連写**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
	AEブラケティング（□82）	フラッシュは使えません。
セルフタイマー / 笑顔自動シャッター	AFエリア選択（□83）	［**ターゲット追尾**］または［**顔認識追尾**］にして撮影するときは、セルフタイマー /笑顔自動シャッターは使えません。
マクロモード	AFエリア選択（□83）	［**ターゲット追尾**］または［**顔認識追尾**］にして撮影するときは、マクロモードは使えません。
画像モード	連写（□79）	• ［**マルチ連写**］で撮影するときは、5M（画像サイズ：2560×1920ピクセル）に固定されます。 • ［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］で撮影するときは、記録される画像モードは 1M（画像サイズ：1280 × 960 ピクセル）に固定されます。
ホワイトバランス	クリエイティブスライダーの色合い（□69）	クリエイティブスライダーで色合いを調整して撮影するときは、［**ホワイトバランス**］は設定できません。
連写/ AEブラケティング	連写（□79）/ AEブラケティング（□82）	［**連写**］と［**AEブラケティング**］は同時に使えません。 連写の設定を［**単写**］以外にすると、［**AEブラケティング**］は［**OFF**］にリセットされます。 ［**AEブラケティング**］を［**OFF**］以外にすると、連写の設定は［**単写**］にリセットされます。
	セルフタイマー（□35）/ 笑顔自動シャッター（□36）	［**連写**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］または［**AEブラケティング**］とセルフタイマー /笑顔自動シャッターは同時に使えません。
ISO感度設定	連写（□79）	［**マルチ連写**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］で撮影するときは、撮影モードがP、S、A の場合、［**ISO感度設定**］は明るさに応じて自動的に設定されます。撮影モードがMの場合、ISO感度は160に固定されます。
AFモード	AFエリア選択（□83）	［**顔認識オート**］にして撮影するときは、［**AFモード**］は［**シングルAF**］に固定されます。

制限される機能	設定	内容
デート写し込み	連写（□79）	［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］で撮影するときは、日付を写し込めません。
目つぶり検出設定	笑顔自動シャッター（□36）/連写（□79）/AEブラケティング（□82）	笑顔自動シャッターのとき、連写の設定を［**単写**］以外にしたとき、AEブラケティングのときは、目つぶり検出しません。
電子ズーム	笑顔自動シャッター（□36）	笑顔自動シャッターで撮影するときは、電子ズームは使えません。
	AFエリア選択（□83）	［**ターゲット追尾**］または［**顔認識追尾**］で撮影するときは、電子ズームは使えません。
	連写（□79）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、電子ズームは使えません。

シャッタースピード

シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。
さらに、連写では、以下の範囲に制限されます。

設定		制御範囲
ISO感度設定（□81）	オート※、感度制限オート※、ISO 1600	1/2000～1
	ISO 160※、200、400	1/2000～4
	ISO 800	1/2000～2
	ISO 3200	1/2000～1/2
連写（□79）	連写、BSS	1/2000～1/30
	マルチ連写	1/4000～1/30
	高速連写 120 fps	1/4000～1/125
	高速連写 60 fps	1/4000～1/60

※Mモードのときは、最長シャッタースピードが8秒になります。

- 絞り値がf/1.8（開放絞り）のときは、シャッタースピードが1/1600秒まで設定されます（［**マルチ連写**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］を除く）。
- P、Aモード時、絞り値がf/8でズーム位置が最も広角側または1ステップ望遠側のときは、シャッタースピードが1/1600秒まで設定されます（［**マルチ連写**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］を除く）。

関連ページ

電子ズームについてのご注意→□152

1コマ表示中の操作方法

撮影モードのときに▶（再生）ボタンを押すと再生モードになり、撮影した画像を再生します（□30）。1コマ表示では、以下の操作ができます。

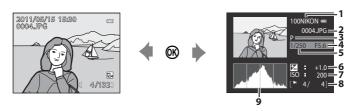
機能	ボタン	内容	□
画像を選ぶ	（ロータリーマルチセレクター）	▲▼◀ ▶で前後の画像を表示します。▲▼◀ ▶を押し続けると早送りします。ロータリーマルチセレクターを回しても画像を選べます。	10
画像を一覧表示する/カレンダー表示にする	W（⊞）	4コマ、9コマ、16コマ、または72コマのサムネイル画像を表示します。72コマ表示でW（⊞）方向に回すとカレンダー表示になります。	94、95
画像を拡大する	T（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。OKボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	96
撮影情報を表示する	OK	ヒストグラムと撮影情報を表示します。OKボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	93
かんたんパノラマで撮影した画像をスクロール再生する	OK	表示中の画像の短辺を画面いっぱいに表示し、表示範囲を自動で移動します。	59
動画を再生する	OK	表示中の動画を再生します。	126
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。	31
メニューを表示する	MENU	メニューを表示します。	98
撮影画面に切り換える	▶ / （シャッターボタン） / ●（🎥）	▶ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（🎥 動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	30

画像の向き（縦横位置）を変更するには

撮影後に、再生メニュー（□98）の［**画像回転**］（□104）で変更できます。

ヒストグラムと撮影情報を表示する

1コマ表示中にⓀボタンを押すと、ヒストグラムと撮影情報を表示します（動画、かんたんパノラマ画像を除く）。1コマ表示に戻るには、もう一度Ⓚボタンを押します。

1	フォルダー名	6	露出補正値
2	ファイル名	7	ISO感度
3	撮影モードP、S、A、M※1	8	画像番号/全画像数
4	絞り値	9	ヒストグラム※2
5	シャッタースピード		

※1 撮影モードが、◘（オート撮影）、SCENE（シーン）、▣（夜景）、▣（逆光）のときにはPと表示されます。

※2 ヒストグラムは、画像の明るさの分布を表すグラフです。
横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

再生モードの1コマ表示（□30、92）でズームレバーをW（▦）方向に回すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります。

サムネイル表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
画像を選ぶ	OK	ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶を押します。	10
表示コマ数を増やす/カレンダーを表示する	W（▦）	ズームレバーをW（▦）方向に回すと、4コマ→9コマ→16コマ→72コマ→カレンダー表示に切り換わります。「カレンダー表示」にすると、撮影日単位で画像の選択を移動できます（□95）。T（Q）方向に回すと、サムネイル表示に戻ります。	–
表示コマ数を減らす	T（Q）	ズームレバーをT（Q）方向に回すと、72コマ→16コマ→9コマ→4コマに切り換わります。4コマ表示でT（Q）方向に回すと、1コマ表示に戻ります。	
1コマ表示に戻る	OK	OKボタンを押します。	30、92
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。	31
撮影画面に切り換える	▶ / シャッターボタン / ●（動画）	▶ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	30

サムネイルに表示されるマーク

［**プリント指定**］（□99）や［**プロテクト設定**］（□102）をした画像の選択中は右のマークが表示されます。
動画は、映画フィルムの1コマのように表示されます（サムネイル表示を72コマ表示にした場合、動画の選択中は画面上部に🎞が表示されます）。

カレンダー表示

再生モードのサムネイル表示を72コマ表示にした後（□94）、さらにズームレバーを**W**（▦）方向に回すと「カレンダー表示」になります。
撮影日単位で画像の選択を移動できます。撮影画像のある日付には、黄色の下線が表示されます。

カレンダー表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
日付を選ぶ	(ロータリーマルチセレクター)	ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀▶を押します。	10
1コマ表示に戻る	OK	選んだ日の最初に撮影した画像の1コマ表示に移動します。	30、92
画像の一覧表示に戻る	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。	–

カレンダー表示についてのご注意

- 日時を設定せずに撮影した画像は、カレンダー表示で「2011年1月1日」の画像として扱われます。
- カレンダー表示中は、MENUボタンおよび🗑ボタンは使えません。

画像を拡大表示する

再生モードの1コマ表示（□30）でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、表示中の画像の中央部が拡大表示されます。

- 画面右下のガイドは、画像のどの部分を表示しているかを示しています。

拡大表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
拡大率を上げる	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。約10倍まで拡大できます。コマンドダイヤルを右に回しても拡大率が上がります。	–
拡大率を下げる	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回します。倍率が1倍になると、1コマ表示に戻ります。コマンドダイヤルを左に回しても拡大率が下がります。	–
表示範囲を移動する	（ロータリーマルチセレクター）	ロータリーマルチセレクターの▲▼◀▶を押して、表示範囲を移動します。	10
1コマ表示に戻る	ⓚ	ⓚボタンを押します。	30、92
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。	31
画像の一部を切り抜く（トリミング）	MENU	拡大表示した部分だけを別画像として保存します。	117
撮影画面に切り換える	▶ （シャッターボタン） ●（▸🎥）	▶ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（▸🎥 動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	30

顔認識やペット検出して撮影した画像の場合

顔認識（□85）またはペット検出（□56）して撮影した画像は、1コマ表示でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます（［**連写**］（□79）、［**AEブラケティング**］（□82）または［**顔認識追尾**］（□87）を設定して撮影した画像を除く）。

- 複数の顔を認識していたときは、ピント合わせを行った顔を中心に拡大表示され、ロータリーマルチセレクターの▲▼◀▶を押すと表示する顔が切り換わります。
- さらに**T**（Q）方向または**W**（▦）方向に回すと拡大率が変わり、通常の拡大表示になります。

再生メニューを使う

再生メニューでは、以下の機能が使えます。

	簡単レタッチ	110
	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。	
	D-ライティング	111
	撮影した画像の暗い部分を明るく補正します。	
	美肌	112
	人物の顔の肌をなめらかにします。	
	フィルター効果	114
	デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。	
	プリント指定	99
	プリンターでプリントする画像や、その枚数などを設定します。	
	スライドショー	101
	内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	
	プロテクト設定	102
	大切な画像を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	
	画像回転	104
	撮影した画像の向きを変更します。	
	スモールピクチャー	116
	撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。	
	音声メモ	105
	撮影した画像に、音声によるメモを付けます。	
	画像コピー	107
	内蔵メモリーとSDカードの間で画像をコピーします。	

再生メニューの表示方法

▶ボタンを押して再生モードにします（30）。

MENUボタンを押して、再生メニューを表示します。

- メニューの選択と設定にはロータリーマルチセレクターを使います（10）。
- 再生メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

🖶 プリント指定（プリントする画像や枚数の設定）

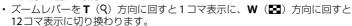
▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 🖶プリント指定

SDカードに記録した画像を以下の方法でプリントする場合、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめSDカードに設定できます。

- カードスロットが付いたDPOF対応（📖184）のプリンターでプリントする。
- DPOF対応のプリントサービス店にプリントを依頼する。
- カメラを PictBridge 対応（📖184）のプリンターに接続してプリントする（📖135）（カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます）。

1 ロータリーマルチセレクターで［**複数画像選択**］を選び、🆗ボタンを押す

2 プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- ロータリーマルチセレクターを回すか、◀▶を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。

- ズームレバーを **T**（🔍）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら🆗ボタンを押します。

3 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［**日付**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［**撮影情報**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［**選択終了**］を選んでⓀボタンを押し、設定を有効にします。

プリント指定を行った画像は、再生時の画面で確認できます。

日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［**日付**］と［**撮影情報**］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（□184）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOFプリント」（□140）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［**プリント指定**］を表示すると、［**日付**］と［**撮影情報**］の設定はリセットされますのでご注意ください。
- プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［**地域と日時**］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

プリント指定をすべて取り消すには

プリント指定の手順1（□99）で［**プリント指定取消**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に対するプリント指定を取り消しできます。

［デート写し込み］について

セットアップメニューの［**デート写し込み**］（□149）を使うと、撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。デート写し込みした画像は、［**プリント指定**］で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

スライドショー

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ スライドショー

内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 ロータリーマルチセレクターで［**開始**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 画像の表示時間を変更するには、［**開始**］を選ぶ前に［**インターバル設定**］を選んでⓀボタンを押し、画像の表示時間を選びます。
- 繰り返し再生するには、［**開始**］を選ぶ前に［**エンドレス**］を選んでⓀボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にロータリーマルチセレクターの▶を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/早戻しになります）。
- 途中で終了または一時停止したいときは、Ⓚボタンを押します。

3 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中は、右の画面になります。［**終了**］を選び、Ⓚボタンを押すと再生メニューに戻ります。［**再開**］を選ぶとスライドショーを再開します。

スライドショーについてのご注意

- 動画（📖126）は1フレーム目だけを表示します。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、スライドショーでは再生されません。
- スライドショーを連続再生できる時間は、［**エンドレス**］に設定している場合も含め、最大約30分です（📖153）。

O‑n プロテクト設定

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）O‑n プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます。
画像選択の画面で、画像を選んでプロテクトの設定または解除をします。→「画像選択画面の操作方法」（□103）
ただし、内蔵メモリー /SDカードを初期化（フォーマット、□154）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

プロテクト設定した画像は、カメラでの再生時にO‑nマーク（□8、95）が表示されます。

画像選択画面の操作方法

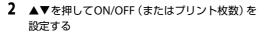
以下のメニューでは、画像選択時に右のような画面が表示されます。
1画像のみ選べるメニュー項目と、複数の画像を選べるメニュー項目があります。

1画像だけ選べる機能	複数の画像を選べる機能
・**再生メニュー**： 画像回転（□104） ・**セットアップメニュー**： オープニング画面の［**撮影した画像**］（□143）	・**再生メニュー**： プリント指定の［**複数画像選択**］（□99）、 プロテクト設定（□102）、 画像コピーの［**選択画像コピー**］（□107） ・画像削除の［**削除画像選択**］（□31）

以下の手順で画像を選びます。

1 ロータリーマルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、画像を選ぶ

- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 1画像だけ選べる機能の場合→手順3へ

2 ▲▼を押してON/OFF（またはプリント枚数）を設定する

- ONにすると、選択画像に✓が表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

3 ⓚボタンを押して画像選択を決定する

- ［**選択画像コピー**］などでは、確認画面になります。画面の表示に従って操作してください。

いろいろな再生

画像回転

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 画像回転

撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。静止画を時計方向に90度、または反時計方向に90度回転できます。
撮影時に縦位置で記録された画像は、時計回り/反時計回りのどちらか一方向に180度まで回転できます。

画像選択の画面で回転する画像を選ぶと（□103）、画像回転の画面が表示されます。ロータリーマルチセレクターを回すか、◀または▶を押すと90度回転します。

反時計方向に90度回転　　**時計方向に90度回転**

OKボタンを押すと、表示している方向で決定し、画像に縦横位置情報が記録されます。

🎙 音声メモ

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 🎙音声メモ

撮影した画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモが付けられます。

音声メモを録音する

1 1コマ表示（📖30）またはサムネイル表示（📖94）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで🎙［音声メモ］を選び、Ⓚボタンを押す

- 音声メモの録音画面になります。

3 Ⓚボタンを押し続けて、音声メモを録音する

- Ⓚ ボタンを押している間、約 20 秒まで音声メモを録音できます。
- 録音中はカメラのマイクに触れないようご注意ください。

- 録音中はRECと🎙が点滅します。
- 録音が終了すると、音声メモ再生画面になります。「音声メモを再生する」（📖106）の手順3に従って再生できます。
- 録音前または録音終了後にロータリーマルチセレクターの◀を押すと、再生メニューに戻ります。MENUボタンを押すと、再生メニューを終了します。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→📖168

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像には、1コマ表示で[♪]が表示されます。

1 1 コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□94）で音声メモ付き画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで🎙［音声メモ］を選び、Ⓚボタンを押す

- 音声メモの再生画面になります。

3 Ⓚボタンを押して音声メモを再生する

- 再生を途中で止めるには、Ⓚボタンを押します。
- 再生中は、ズームレバー **T**/**W** で音量を調節できます。
- 再生前または再生終了後にロータリーマルチセレクターの◀を押すと、再生メニューに戻ります。MENUボタンを押すと、再生メニューを終了します。

音声メモを削除する

音声メモ付き画像を選んで🗑ボタンを押します。ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼を押して［**表示画像**］を選び、Ⓚボタンを押します（□31）。確認画面が表示されたら、▲▼で［[♪]］を選んでⓀボタンを押すと、音声メモだけを削除します。

✔ 音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- COOLPIX P300以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、音声メモを付けられません。

画像コピー（内蔵メモリーとSDカード間のコピー）

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 ロータリーマルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

- 内蔵メモリー➔SDカード：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
- SDカード➔内蔵メモリー：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、OKボタンを押す

- ［**選択画像コピー**］：画像選択の画面（□103）で、画像を選んでコピーします。
- ［**全画像コピー**］：すべての画像をコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできるファイルの形式は、JPEG、MOV、WAVです。これ以外の形式のファイルはコピーできません。
- 画像コピーでは、画像に付けた「音声メモ」（□105）も画像と同時にコピーします。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［**プリント指定**］（□99）した画像をコピーしても、プリント指定の設定内容はコピーされません。［**プロテクト設定**］（□102）した画像をコピーすると、コピー先の画像もプロテクトされます。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［**撮影画像がありません**］と表示されますが、MENUボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□168

画像編集の種類

このカメラでは以下の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別に、異なるファイル名で保存されます（□168）。

編集の種類	用途
簡単レタッチ（□110）	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。
D-ライティング（□111）	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正します。
美肌（□112）	人物の顔の肌をなめらかにします。
フィルター効果（□114）	デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。効果の種類には、［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**絵画調**］があります。
スモールピクチャー（□116）	サイズの小さい画像を作成します。電子メールに添付して送信するときなどに使います。
トリミング（□117）	画像の一部を切り抜きます。被写体をクローズアップしたいときや構図に手を加えたいときなどに使います。

画像編集についてのご注意

- ［**画像モード**］（□74）を［3968×2232］にして撮影した画像は、編集ができません。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、編集できません。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、美肌の編集はできません（□112）。
- COOLPIX P300以外で撮影した画像は、このカメラで編集できません。
- COOLPIX P300以外のデジタルカメラでは、このカメラで編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

画像編集の制限

編集で作成した画像に別の編集を追加するときには、以下の制限があります。

編集に使った機能	追加できる編集機能
簡単レタッチ D-ライティング	美肌、フィルター効果、スモールピクチャーまたはトリミングができます。簡単レタッチとD-ライティングを組み合わせることはできません。
美肌 フィルター効果	簡単レタッチ、D-ライティング、スモールピクチャーまたはトリミングができます。
スモールピクチャー トリミング	追加編集できません。

- 編集で作成した画像に同じ種類の編集を繰り返すことはできません。
- スモールピクチャーまたはトリミングと別の編集機能を組み合わせるときは、スモールピクチャーまたはトリミングは最後に編集してください。
- 撮影時に美肌機能を使って撮影した画像にも、美肌の編集ができます。

元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また、編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［**プリント指定**］（□99）や［**プロテクト設定**］（□102）した画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

画像を編集する

簡単レタッチ（コントラストと鮮やかさを高める）

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を、簡単に作成できます。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□94）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［簡単レタッチ］を選び、OKボタンを押す

- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- レタッチした画像が作成されます。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。

- 簡単レタッチで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

画像の編集

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□168

D-ライティング（画像の暗い部分を明るく補正する）

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。補正した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□94）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［D-ライティング］を選び、OKボタンを押す

- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ［実行］を選び、OKボタンを押す

- 補正した画像が作成されます。
- 中止するときは、［**キャンセル**］を選び、OK ボタンを押します。

- D-ライティングで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

画像の編集

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□168

美肌（肌をなめらかにする）

撮影した画像から人物の顔を検出して、顔の肌をなめらかにします。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（30）またはサムネイル表示（94）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［美肌］を選び、OKボタンを押す

- 効果の度合いを設定する画面が表示されます。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、警告メッセージが表示され、再生メニューに戻ります。

3 ▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 確認画面になり、美肌編集した顔が拡大表示されます。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。

4 効果を確認する

- 最も画面の中央に近い順に、最大12人の肌を編集します。
- 美肌編集した顔が複数あるときは、ロータリーマルチセレクターの◀ ▶を押すと顔の切り換えができます。
- 効果の度合いを変えたいときは、MENUボタンを押して、手順3に戻ります。
- ⓪ボタンを押すと、美肌編集した画像が作成されます。
- 美肌編集で作成した画像は、再生画面で🖼が表示されます。

美肌についてのご注意

顔の向きや明るさなど、画像によっては、適切に顔を検出できないことや望ましい効果が得られないことがあります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→🕮168

フィルター効果（デジタルフィルター）

デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。以下の効果を選べます。
フィルター効果で作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

種類	内容
クロススクリーン	太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋を伸ばします。夜景などを撮影した画像が適しています。
魚眼効果	魚眼レンズで撮影したような画像にします。マクロで撮影した画像が適しています。
ミニチュア効果	ミニチュア（模型）を接写したように加工します。高いところから見下ろして撮影した画像で、主要な被写体が画面中央付近に写った画像が適しています。
絵画調	絵画のような雰囲気に加工します。

1 1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□94）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［フィルター効果］を選び、OKボタンを押す

3 フィルター効果の種類を選び、OKボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

4　効果を確認し、［**保存**］を選んで🆗ボタンを押す

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、［**キャンセル**］を選び、🆗 ボタンを押します。

- フィルター効果で作成した画像は、再生画面で🖉が表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→📖168

スモールピクチャー（画像サイズを小さくする）

撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。ホームページで使ったり、電子メールへ添付したりするのに便利です。サイズは［**640×480**］、［**320×240**］または［**160×120**］から選べます。スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像（圧縮率約1/16）として保存されます。

1 1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□94）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで ［スモールピクチャー］を選び、ⓚボタンを押す

3 スモールピクチャーのサイズを選び、ⓚ ボタンを押す

4 ［はい］を選び、ⓚボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、ⓚ ボタンを押します。
- スモールピクチャーで作成した画像は、黒の枠で囲まれて表示されます。

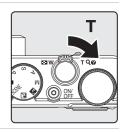
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□168

トリミング（画像の一部を切り抜く）

拡大表示（96）中にMENU:マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（30）でズームレバーをT（Q）方向に回して、画像を拡大表示する

- 縦位置画像は、左右の黒い帯が見えなくなるまで画像を拡大するとトリミングできますが、トリミング画像は横位置になります。縦位置のトリミング画像を作るには［**画像回転**］（104）で横位置にしてからトリミングし、再度トリミング画像を縦位置に戻します。

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーをT（Q）またはW（）方向に回して拡大率を調節します。
- ロータリーマルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

4 ロータリーマルチセレクターで［はい］を選び、OKボタンを押す

- トリミング画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OK ボタンを押します。

画像サイズについて

切り抜く範囲が狭くなるほど、トリミングで作成した画像の画像サイズ（ピクセル数）は小さくなります。トリミングして画像サイズが 320×240 または 160×120 になった画像は、再生時に黒の枠で囲まれ、画面左側にスモールピクチャーのまたはアイコンが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→168

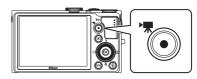
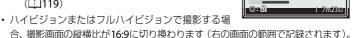
動画を撮影する

ハイビジョンの動画（音声付き）を撮影できます。

- 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでもファイルサイズが4 GBまで、または最長29分までです（□125）。

1 電源をONにして、撮影画面を表示する

- 動画は、どの撮影モード（□40）を選んでいても撮影できます。
- 動画設定は、撮影する動画の種類を表します。初期設定は、1080/30p［HD 1080p★ (1920×1080)］です（□123）。

2 ●（動画撮影）ボタンを押して、動画の撮影を開始する

- 液晶モニターが一度消灯した後、動画撮影が始まります。
- 動画撮影時のピント合わせについて
  → 「AFモード」（□125）
  → 「オートフォーカスが苦手な被写体の動画撮影」（□119）
- ハイビジョンまたはフルハイビジョンで撮影する場合、撮影画面の縦横比が16:9に切り換わります（右の画面の範囲で記録されます）。

- セットアップメニュー［**モニター設定**］（□147）の［**モニター表示設定**］を［**動画枠+情報AUTO**］にすると、動画撮影開始前に動画撮影範囲の枠を画面に表示できます。
- 動画撮影中にロータリーマルチセレクターの▶を押すと、露出が固定されます。解除するには、もう一度▶を押します。
- 撮影中は、記録可能な残り時間の目安を液晶モニターで確認できます。
- 記録可能な残り時間が無くなると、撮影が自動的に終了します。

3 ●（動画撮影）ボタンを押して撮影を終了する

動画の保存についてのご注意

撮影終了後、撮影画面に切り換わるまでは、動画の保存は終了していません。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**保存が終了する前にSDカードやバッテリーを取り出すと、動画が記録されないことや、撮影した動画やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

✔ 動画撮影についてのご注意

- 動画をSDカードに記録するときは、SDスピードクラスがClass 6以上のSDカードをおすすめします（📖167）。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 動画の撮影時は、画角（写る範囲）が静止画に比べて狭くなります。
- 電子ズームを使うと、画質は劣化します。電子ズームを使わずに動画撮影を開始したときは、ズームレバーを**T**方向に回し続けると、光学ズームの最大倍率でズームが止まります。いったんズームレバーから指をはなして、もう一度**T**方向に回すと電子ズームが作動します。
  電子ズームは、動画撮影を終了するとキャンセルされます。
- ズームレバーなどの操作音、ズーム、オートフォーカス、手ブレ補正、明るさが変化したときの絞り制御などの動作音が録音されることがあります。
- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、以下のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画像に横帯が発生する
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体がゆがむ
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体がゆがむ
  - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する

✔ オートフォーカスが苦手な被写体の動画撮影

「オートフォーカスが苦手な被写体」（📖29）では、ピント合わせができないことがあります。このような被写体を動画で撮影するときは、以下の方法をお試しください。

1. 📷（オート撮影）モードにするか、P、S、A、Mなどで［**AFエリア選択**］（📖83）を［**中央**］か［**マニュアル**］に切り換える。
2. 撮影前に動画メニューの［**AFモード**］（📖125）をAF-S［**シングルAF**］（初期設定）にする。
3. AFエリアを等距離にある別の被写体に合わせ、●（🎥動画撮影）ボタンを押し、動画撮影を開始してから構図を変える。

✔ カメラの温度について

動画撮影などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがありますが、故障ではありません。

🖉 動画撮影で使える機能

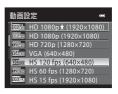
- クリエイティブスライダー、露出補正、またはホワイトバランスの設定も撮影する動画に反映します。シーンモード（📖41）やスペシャルエフェクト（📖56）での色合いも動画に反映します。マクロモードのときは、より被写体に近づいて動画を撮影できます。動画の撮影を開始する前に設定を確認してください。
- セルフタイマー（📖35）を使えます。セルフタイマーを設定してから、●（🎥動画撮影）ボタンを押すと、画面中央でピントが合い、10秒または2秒後に動画撮影を開始します。
- フラッシュは発光しません。
- 動画の撮影を開始する前にMENUボタンを押して、🎥（動画）タブに切り換えると動画メニューの設定ができます（📖122）。
- 動画撮影中に設定は変更できません。撮影を開始する前に設定を確認してください。

スローモーション動画または早送り動画を撮影する（HS動画）

HS（ハイスピード）動画を撮影できます。HS動画で撮影した動画は、通常再生の1/4または1/2の速度のスローモーションや2倍の早送りで再生されます。

1 動画メニュー（🕮122）を表示し、ロータリーマルチセレクターで［**動画設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

2 ［**HS 120 fps (640×480)**］、［**HS 60 fps (1280×720)**］または［**HS 15 fps (1920×1080)**］に変更し、Ⓚボタンを押す

- 設定したらMENUボタンを押して、撮影画面に戻ります。

3 ●（動画撮影）ボタンを押して、撮影を開始する

- 液晶モニターが一度消灯した後、HS動画の撮影が始まります。
- 画面中央でピントが合います。動画の撮影中は、AFエリアは表示されません。
- ［**HS 60 fps (1280×720)**］または［**HS 15 fps (1920×1080)**］で撮影する場合、撮影画面の縦横比が16:9に切り換わります。
- 撮影中は、記録可能な残り時間の目安を液晶モニターで確認できます。
- 記録可能な残り時間が無くなると、撮影が自動的に終了します。

HS動画設定

4 ●（動画撮影）ボタンを押して、撮影を終了する

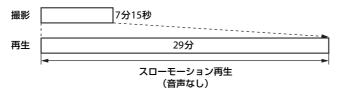
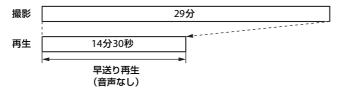
動画の撮影と再生

HS動画についてのご注意

- 音声は記録されません。
- ズーム位置、ピント、露出、ホワイトバランスは、●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときに固定されます。

HS動画について

撮影した動画は、約30フレーム/秒で再生されます。
［**動画設定**］（123）を［**HS 120 fps (640×480)**］または［**HS 60 fps (1280×720)**］に設定すると、スローモーション再生が可能な動画を撮影できます。［**HS 15 fps (1920×1080)**］に設定すると、2倍の早送り再生が可能な動画を撮影できます。

［HS 120 fps (640×480)］の速度で撮影したとき：
撮影時に最長7分15秒をハイスピードで記録します。ハイスピードで記録した動画は、4倍の時間をかけてスローモーションで再生されます。

［HS 15 fps (1920×1080)］の速度で撮影したとき：
撮影時に最長29分を早送り再生用に記録します。再生すると2倍の速さの早送りになります。

動画メニューを使う

動画メニューで以下の項目を設定できます。

動画設定	📖123
撮影する動画の種類を選びます。	
AFモード	📖125
動画撮影するときのピントの合わせ方を選びます。	

動画メニューの表示方法

撮影画面でMENUボタンを押してメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターで🎥タブに切り換え、動画メニューを表示します（📖11）。

- メニューの選択と設定には、ロータリーマルチセレクターを使います（📖10）。
- 動画メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

動画設定

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎬（動画メニュー）（📖122）➔ 動画設定

撮影する動画の種類を選びます。
動画には、通常速度の動画と、スローモーション再生や早送り再生ができるHS（ハイスピード）動画（📖120）があります。
解像度が高く、ビットレートが大きいほど高画質になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

通常速度の動画

種類	内容
HD 1080p ★ (1920×1080) **（初期設定）**	フルハイビジョン画質で縦横比16:9の動画を記録します。フルハイビジョンに対応したワイドテレビで再生するのに適しています。 • 解像度：1920 × 1080 ピクセル • ビットレート：約 18.8 Mbps • 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒
HD 1080p (1920×1080)	フルハイビジョン画質で縦横比16:9の動画を記録します。フルハイビジョンに対応したワイドテレビで再生するのに適しています。 • 解像度：1920 × 1080 ピクセル • ビットレート：約 12.6 Mbps • 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒
HD 720p (1280×720)	ハイビジョン画質で縦横比16:9の動画を記録します。ワイドテレビで再生するのに適しています。 • 解像度：1280 × 720 ピクセル • ビットレート：約 8.4 Mbps • 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒
VGA (640×480)	縦横比4:3の動画を記録します。 • 解像度：640 × 480 ピクセル • ビットレート：約 2.9 Mbps • 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒

HS動画

スローモーション動画または早送り動画を撮影する（HS動画）→□120

種類	内容
HS 120 fps (640×480)	縦横比4:3で1/4の速度のスローモーション動画を撮影します。 • 最長撮影時間：7 分 15 秒（再生時間：29 分） • 解像度：640 × 480 ピクセル • ビットレート：約 2.8 Mbps • 撮影フレーム数：約 120 フレーム / 秒 • 撮影モードがスペシャルエフェクト（□56）の場合、［**ソフト**］の効果は動画に反映されません。［**ノスタルジックセピア**］の効果は色合いだけ反映されます。
HS 60 fps (1280×720)	縦横比16:9 で1/2 の速度のスローモーション動画を撮影します。 • 最長撮影時間：14 分 30 秒（再生時間：29 分） • 解像度：1280 × 720 ピクセル • ビットレート：約 8.3 Mbps • 撮影フレーム数：約 60 フレーム / 秒
HS 15 fps (1920×1080)	縦横比16:9で2倍の速度の早送り動画を撮影します。 • 最長撮影時間：29 分（再生時間：14 分 30 秒） • 解像度：1920 × 1080 ピクセル • ビットレート：約 18.6 Mbps • 撮影フレーム数：約 15 フレーム / 秒

• ビットレートとは、1 秒間あたりの動画のデータ量です。撮影する被写体により、ビットレートが自動的に変わる「VBR 記録方式」を採用しています。動きの多い被写体を記録した場合は、ファイルサイズが大きくなります。

動画の記録可能時間

種類	内蔵メモリー（約 90 MB）	SDカード（4 GB）※3
HD 1080p★（1920×1080）（初期設定）	37秒※1	約25分
HD 1080p (1920×1080)	57秒	約40分
HD 720p (1280×720)	1分25秒	約1時間
VGA (640×480)	4分2秒	約3時間
HS 120 fps (640×480)	1分5秒	約45分
HS 60 fps (1280×720)	42秒※2	約30分
HS 15 fps (1920×1080)	1分17秒	約50分

数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類や撮影した動画のビットレートによって記録可能時間は異なります。

※1 1回の撮影で記録可能な時間は25秒です。
※2 1回の撮影で記録可能な時間は30秒です。
※3 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでもファイルサイズ4 GBまで、または最長29分までです。撮影時の画面には、1回の撮影で記録可能な時間が表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→🕮168

AFモード

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（🕮122）➔ AFモード

動画（🕮123）撮影時のピントの合わせ方を選びます。
- 動画撮影中、AFエリアは表示されません。

設定	内容
AF-S シングルAF（初期設定）	●（🎥 動画撮影）ボタンで撮影を開始したときのピントに固定します。ピントは静止画撮影時と同じAFエリアで合います。 撮影中に被写体との距離があまり変化しない撮影に適しています。
AF-F 常時AF	通常速度の動画撮影中、ピント合わせを繰り返します。ピントは画面中央に合います。 撮影中に被写体との距離が変化する撮影に適しています。ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］での撮影をおすすめします。 • HS 動画（🕮120）の場合、ピントは画面中央に固定します（撮影中はピント合わせをしません）。

動画を再生する

1コマ表示（□30）で動画設定（□123）のアイコンが表示されている画像が動画です。Ⓞボタンを押すと、再生できます。

再生中は、ズームレバー**T**/**W**で音量を調節できます。ロータリーマルチセレクターを回すと早送り/巻き戻しできます。
画面上部には操作パネルが表示されます。ロータリーマルチセレクターの◀ ▶で操作パネルのアイコンを選び、Ⓞボタンを押すと以下の操作ができます。

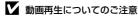
機能	アイコン	内容	
巻き戻し		Ⓞボタンを押している間、巻き戻します。	
早送り		Ⓞボタンを押している間、早送りします。	
一時停止		一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで以下の操作ができます。	
			1コマ戻ります。Ⓞボタンを押し続けると、連続してコマ戻しします。※
			1コマ進みます。Ⓞボタンを押し続けると、連続してコマ送りします。※
			再生を再開します。
再生終了		1コマ表示に戻ります。	

※ ロータリーマルチセレクターを回してもコマ送り/コマ戻しできます。

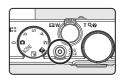
不要な動画を削除する

1コマ表示（□30）やサムネイル表示（□94）で動画を選んで🗑ボタンを押すと、削除方法を選ぶ画面が表示されます。詳しくは、「不要な画像を削除する」（□31）をご覧ください。

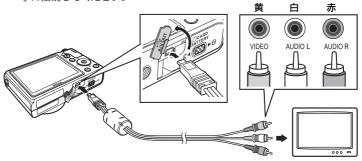
動画再生についてのご注意

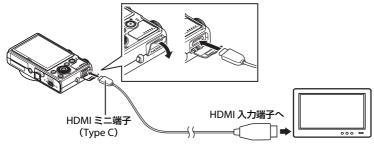
COOLPIX P300以外で撮影した動画は、再生できません。

テレビに接続する

カメラをテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。HDMI端子が付いたテレビをお持ちの場合は、市販のHDMIケーブルで接続すると、ハイビジョン画質で楽しめます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

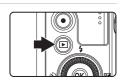
付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）で接続する場合

- 黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、赤色と白色のプラグを音声入力端子に接続してください。

市販のHDMIケーブルで接続する場合

- テレビのHDMI入力端子に接続してください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを押し続けて電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

HDMI接続についてのご注意

- HDMIケーブルは付属していません。市販のものをご用意ください。カメラのHDMI出力端子は、HDMIミニ端子（Type C）です。HDMIケーブルご購入時は、ケーブルの片方がHDMIミニ端子のものをお選びください。
- HDMI端子が付いたテレビにカメラを接続し、ハイビジョン画質で再生して楽しむには、静止画の［**画像モード**］（□74）は3M［**2048 × 1536**］以上に、動画の［**動画設定**］（□123）は720/30［**HD 720p (1280×720)**］以上にして撮影するようおすすめします。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- カメラのHDMIミニ端子とUSB/オーディオビデオ出力端子に、同時にケーブルを接続しないでください。

画像がテレビに映らないときは

セットアップメニュー（□141）の［**TV出力設定**］（□155）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）

HDMI-CEC規格対応テレビのリモコンで、再生中の操作ができます。
カメラのロータリーマルチセレクターやズームレバーのかわりに、リモコンで画像の選択や動画、かんたんパノラマ画像の再生/停止、1コマ表示と4コマのサムネイル表示の切り換えができます。

- カメラのセットアップメニュー［**TV出力設定**］の［**HDMI 機器制御**］（□155）を［**ON**］（初期設定）にし、HDMIケーブルで接続してください。
- リモコンは、テレビに向けて操作してください。
- お使いのテレビがHDMI-CEC規格に対応しているかどうかは、テレビの説明書などでご確認ください。

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、撮影した画像をパソコンに保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

付属のViewNX 2 CD-ROMで、以下のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。
ソフトウェアのインストール方法は、簡単スタートガイドをご覧ください。

- ViewNX 2：画像の転送機能「Nikon Transfer 2」で、撮影した画像をパソコンに取り込めます。取り込んだ画像を表示したり、画像を選んで印刷したりできます。静止画や動画を編集する機能もあります。
- Panorama Maker 5：画像をつなぎ合わせてパノラマ写真を作成できます。

対応OS（オペレーティングシステム）

Windows

- Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate
- Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate (Service Pack 2)
- Windows XP Home Edition/Professional (Service Pack 3)

Macintosh

- Mac OS X（Version 10.4.11、10.5.8、10.6.5）

ハイビジョン画質の動画再生条件については、ViewNX 2のヘルプの「動作環境」をご覧ください（□133）。
対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

パソコンに接続するときのご注意

市販のUSB充電器など、他のUSB機器はパソコンから取り外してください。
USB機器によっては、同時に接続すると動作に不具合が発生することや、パソコンからの供給電力が過大になり、同時に接続したカメラ、SDカードなどが壊れるおそれがあります。お使いのUSB機器の説明書もご確認ください。

電源についてのご注意

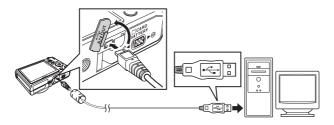
- パソコンと接続して画像を転送するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- カメラのセットアップメニューの［**パソコン接続充電**］が［**AUTO**］（初期設定）のときは、起動済みのパソコンにカメラを付属のUSBケーブルで接続すると、パソコンからの電力供給状態に応じて、カメラ内のバッテリーを自動的に充電できます（🕮134、156）。
- 別売のACアダプター EH-62F（🕮166）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-62F以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

カメラからパソコンに画像を転送する

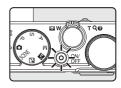
1 ViewNX 2をインストール済みのパソコンを起動する

2 カメラの電源をOFFにする

3 付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を外すときも、まっすぐに引き抜いてください。

- カメラの電源が自動的にONになり、電源ランプが点灯します。カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

USBケーブル接続についてのご注意

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

4 パソコンでViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」を起動する

- **Windows 7 の場合：**
  ［**デバイスとプリンター ▶P300**］画面が表示されたら、［**画像とビデオのインポート**］の下の［**プログラムの変更**］をクリックします。［**プログラムの変更**］ダイアログで［**画像ファイルを取り込む－Nikon Transfer 2 使用**］を選び、［**OK**］をクリックします。
  ［**デバイスとプリンター ▶P300**］画面で［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックします。
- **Windows Vista の場合：**
  ［**自動再生**］ダイアログが表示されたら、［**画像ファイルを取り込む－Nikon Transfer 2 使用**］をクリックします。
- **Windows XP の場合：**
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面が表示されたら、［**Nikon Transfer 2 画像ファイルを取り込む**］を選び、［**OK**］をクリックします。
- **Mac OS Xの場合：**
  ViewNX 2のインストールで、［**自動起動の設定**］を［**はい**］にした場合は、カメラを接続するとNikon Transfer 2が自動起動します。
- Nikon Transfer 2を手動で起動するには→📖133
- カメラ内のバッテリー残量が少ないときは､パソコンでカメラを認識できず､画像を転送できないことがあります。パソコンからの電力でカメラ内のバッテリー充電が始まったときは､バッテリー残量が増えるまでお待ちください。
- SDカード内に大量の画像があると、Nikon Transfer 2の起動に時間がかかる場合があります。

5 オプションエリアの［**転送元**］パネル内に、接続したカメラ名のデバイスボタンが表示されていることを確認し､［**転送開始**］ボタンをクリックする

- パソコンに転送されていないすべての画像が転送されます（ViewNX 2の初期設定）。

- 転送が終わると、ViewNX 2の画面が開き（ViewNX 2の初期設定）、転送した画像が表示されます。

- ViewNX 2の操作方法については、ViewNX 2のヘルプをご覧ください（□133）。

カメラとパソコンの接続を外すときは

- 転送中は、電源をOFFにしたり、カメラとパソコンの接続を外したりしないでください。
- 接続を外すときは、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを外してください。
- USBケーブルを接続したまま、パソコンとの通信が無い状態が30分続くと、カメラの電源は自動的にOFFになります。

☑ バッテリーの充電について

カメラの充電ランプが、緑色でゆっくり点滅しているときは、カメラ内のバッテリーを充電中です（□134）。

転送に市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使う

SD カード内の画像は、市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使っても、ViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」で転送できます。

- カードリーダーなどの機器が、お使いのSDカードに対応しているかご確認ください。
- カードリーダーまたはカードスロットにSD カードを入れ、手順4（□131）以降を参照して、画像を転送してください。
- 内蔵メモリーに記録したデータは、カメラでSDカードにコピーしてから（□107）転送してください。

ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows ：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ViewNX 2**］→［**ViewNX 2**］の順にクリックします。デスクトップの［**ViewNX 2**］のショートカットアイコンをダブルクリックしても起動できます。
- Mac OS X ：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Nikon Software**］→［**ViewNX 2**］の順にフォルダーを開き、［**ViewNX 2**］アイコンをダブルクリックします。Dockの［**ViewNX 2**］アイコンをクリックしても起動できます。

Nikon Transfer 2を手動で起動するには

Nikon Transfer 2 は、ViewNX 2 を起動し、画面上部の［**Transfer**］アイコン、または［**ファイル**］メニューから［**Transferを起動**］をクリックして起動します。

ViewNX 2またはNikon Transfer 2の詳しい使い方（ヘルプ）を見るには

ViewNX 2またはNikon Transfer 2を起動して、メニューバーの［**ヘルプ**］→［**ViewNX 2ヘルプ**］を選ぶと、ヘルプ画面を表示して詳しい使い方を見ることができます。

パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker 5）

- シーンモード［**パノラマ**］の［**パノラマアシスト**］機能（□60）を使って撮影した画像を、Panorama Maker 5を使ってパノラマ写真に合成できます。
- Panorama Maker 5は、付属のViewNX 2 CD-ROMでインストールできます。
- Panorama Maker 5をインストールしたら、以下のように起動します。
  Windows：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ArcSoft Panorama Maker 5**］→［**Panorama Maker 5**］の順にクリックします。
  Mac OS X：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Panorama Maker 5**］をダブルクリックします。
- Panorama Maker 5の使い方は、Panorama Maker 5の操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□168

パソコン接続時の充電について

カメラのセットアップメニューの［**パソコン接続充電**］（□156）が［**AUTO**］（初期設定）のときは、カメラをUSBケーブルでパソコンと接続すると、パソコンからの電力供給状態に応じて、カメラ内のバッテリーを自動的に充電できます。
カメラをパソコンに接続する方法は、「カメラとパソコンを接続する前に」（□129）、「カメラからパソコンに画像を転送する」（□130）をご覧ください。

充電ランプについて

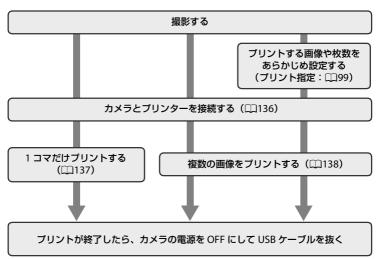
パソコンに接続しているときのカメラの充電ランプの状態と意味は以下のとおりです。

充電ランプ	意味
ゆっくり点滅（緑色）	充電中です。
消灯	充電していません。 電源ランプが点灯したまま、ゆっくりした点滅（緑色）から消灯に変わると、充電の完了です。
速い点滅（緑色）	• 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が 5 ～ 35 ℃の室内で充電してください。 • USB ケーブルが正しく接続されていないか、バッテリーの異常です。正しく接続し直すか、バッテリーを交換してください。 • パソコンが休止状態（スリープ状態）で電力を供給していません。パソコンを復帰してください。 • パソコンの仕様または設定がカメラへの電力供給に対応していないため充電できません。

パソコンに接続して充電するときのご注意

- パソコンに接続しても、ご購入後にカメラの表示言語と日時（□20）を設定していないときは、充電やデータの転送はできません。また、時計用電池（□145）が切れて日時がリセットされたまま再設定していないときも、充電やデータの転送はできません。本体充電ACアダプター EH-69Pでバッテリーを充電し（□16）、カメラの日時を設定してください。
- カメラの電源をOFFにすると、バッテリーの充電も中止されます。
- 充電中にパソコンが休止状態（スリープ状態）になると、充電が中止され、カメラの電源がOFFになることがあります。
- カメラとパソコンの接続を外すときは、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを外してください。
- 本体充電ACアダプター EH-69P使用時に比べて、充電に時間がかかることがあります。また、画像を転送しながら充電すると、充電に時間がかかります。
- 充電だけをしたいときに、カメラをパソコンに接続して、パソコンでNikon Transfer 2などが起動した場合は、これらの画面を閉じてください。
- 充電が完了し、パソコンとの通信が無い状態が 30 分続くと、カメラの電源は自動的にOFFになります。
- パソコンの仕様、設定または状態によっては、カメラ内のバッテリーを充電できないことがあります。

プリンターに接続する

PictBridge（□184）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、以下のとおりです。

電源についてのご注意

- プリンターと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62F（□166）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）から、このカメラへ電源を供給できます。EH-62F以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

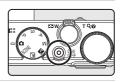
画像のプリント方法について

SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントするほかに以下の方法でプリントできます。

- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

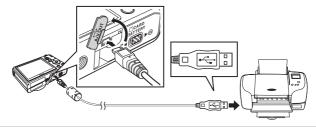
これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、再生メニューの［**プリント指定**］を使って、あらかじめSDカードに設定できます（□99）。

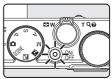
カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

- プリンターの設定を確認してください。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源が自動的にONになる

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに［**PictBridge**］画面（①）が表示された後、［**プリント画像選択**］画面（②）が表示されます。

PictBridge画面が表示されないときは

カメラの電源をいったんOFFにしてUSBケーブルを外してください。カメラのセットアップメニューの［**パソコン接続充電**］（□156）を［**OFF**］に設定してから、接続をやり直してください。

1コマだけプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（□136）、以下の手順でプリントしてください。

1 ロータリーマルチセレクターでプリントする画像を選び、Ⓚボタンを押す

- ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に、**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［**プリント枚数設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、Ⓚボタンを押す

4 ［**用紙設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

5 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

6 ［**プリント実行**］を選び、ⓀボタンをⒸ押す

7 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（□136）、以下の手順でプリントしてください。

1 ［**プリント画像選択**］画面が表示されたら、MENUボタンを押す

- ［**プリントメニュー**］画面が表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［**用紙設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

3 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

テレビ、パソコン、プリンターとの接続

4 ［**プリント選択**］、［**全画像プリント**］または［**DPOFプリント**］を選んで、Ⓚボタンを押す

プリント選択

プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定できます。

- ロータリーマルチセレクターを回すか、◀▶を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらⓀボタンを押します。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んでⓀボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んでⓀボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［**プリント指定**］（□99）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。
- ［**画像の確認**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 Ⓚ ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

用紙設定について

用紙設定画面では、［**プリンターの設定**］以外に、［**L サイズ**］、［**2L サイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**8×10 in.**］、［**Letter**］、［**A3 サイズ**］、［**A4 サイズ**］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

セットアップメニューを使う

セットアップメニューで以下の設定ができます。

オープニング画面 📖143

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

地域と日時 📖144

内蔵時計を合わせます。

モニター設定 📖147

モニター表示設定や画面の明るさを設定します。

デート写し込み 📖149

撮影日時を画像に写し込む設定ができます。

手ブレ補正 📖150

静止画および動画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。

モーション検知 📖151

静止画を撮影するときに被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

AF補助光 📖152

AF補助光の点灯/非点灯を設定します。

電子ズーム 📖152

電子ズームの動作を設定します。

操作音 📖153

操作音について設定します。

オートパワーオフ 📖153

節電のために待機状態に入るまでの時間を設定します。

メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット） 📖154

内蔵メモリー /SDカードを初期化します。

言語/Language 📖155

画面に表示する言語を設定します。

TV出力設定 📖155

テレビとの接続に必要な設定をします。

パソコン接続充電 📖156

USBケーブルでパソコンに接続したときに、バッテリーを充電するかどうかを設定します。

目つぶり検出設定 📖157

顔認識撮影したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

設定クリアー 📖159

各種設定を初期設定に戻します。

バージョン情報 📖161

ファームウェアの情報を表示します。

セットアップメニューの表示方法

メニュー画面を表示して、Y（セットアップ）タブに切り換えます。

1 MENU ボタンを押してメニュー画面を表示する

2 ロータリーマルチセレクターの◀を押す

- タブが選べるようになります。
- ロータリーマルチセレクターの使い方→□10

3 ▲▼を押してYタブを選ぶ

4 ▶または®ボタンを押す

- セットアップメニューの項目が選べるようになります。
- メニューの選択と設定には、ロータリーマルチセレクターを使います（□10）。
- セットアップメニューを終了するには、MENU ボタンを押すか、◀を押して他のタブに切り換えます。

メニューの操作について

セットアップメニューの第一階層表示中にコマンドダイヤルを回すと、選んでいる項目の設定値を変更できます。

オープニング画面

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖142）➔ オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

なし（初期設定）

オープニング画面を表示しないで、撮影または再生画面を表示します。

COOLPIX

オープニング画面を表示してから、撮影または再生画面を表示します。

撮影した画像

撮影した画像をオープニング画面として表示します。画像選択の画面が表示されたら画像を選び（📖103）、Ⓚボタンを押して登録します。
- 登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。
- ［**画像モード**］（📖74）を 16:9 9M［**3968 × 2232**］にして撮影した画像は登録できません。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、登録できません。
- スモールピクチャー（📖116）やトリミング（📖117）で作成した画像サイズ 320 × 240 以下の画像は登録できません。

地域と日時

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□142）➔ 地域と日時

カメラに内蔵された時計を設定します。

日時の設定

内蔵時計の日付と時刻を設定します。
表示される設定画面で、ロータリーマルチセレクターを使って設定します。

- 項目を選ぶ：ロータリーマルチセレクターを回すか、▶または ◀ を押します（［**年**］、［**月**］、［**日**］、［**時**］、［**分**］に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：▲ または ▼ を押します。コマンドダイヤル（□9）を回しても変更できます。
- 設定を完了する：［**分**］を選び、Ⓚ ボタンまたは▶を押します。

日付の表示順

日付の表示順を、［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］から選べます。

タイムゾーン

自宅（⌂）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）を設定します。また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（⌂）との時差（□146）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

時差のある地域で使うには

1 ロータリーマルチセレクターで［**タイムゾーン**］を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**タイムゾーン**］画面が表示されます。

2 ✈［**訪問先**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 訪問先の時計に切り換わります。

3 ▶を押す

- 地域の設定画面が表示されます。

4 ◀または▶を押して訪問先の地域（タイムゾーン）を選ぶ

- 自宅と訪問先の時差が表示されます。
- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域で使うときは、▲を押して夏時間の設定をオンにします。設定をオンにすると、画面上部にマークが表示され、時計が1時間進みます。オフにするときは、▼を押します。
- Ⓞボタンを押して、訪問先を決定します。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面にマークが表示されます。

時差

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、カメラに入れるバッテリーとは別の時計用電池で動いています。カメラにバッテリーを入れるかACアダプターを接続すると、時計用電池が約10時間で充電され、数日間、設定した日時を記憶できます。

（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で［**自宅**］を選び、Ⓞボタンを押してください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で［**自宅**］を選び、［**訪問先**］と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）が始まったときや終わったときは、手順4の地域設定画面で、夏時間のオンとオフを切り換えてください。

撮影時に日付を画像に写し込むには

日時を設定した後に、セットアップメニューの［**デート写し込み**］（149）で設定します。［**デート写し込み**］を設定して撮影すると、撮影日時を画像に写し込んで記録できます。

タイムゾーンについて

時差とタイムゾーンの関係は以下の表をご覧ください。
この表にない時差は、正しい時刻を［**日時の設定**］で合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix（デンバー、フェニックス）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）
–13.5	Caracas（カラカス）
–13	Manaus（マナウス）
–12	Buenos Aires, Sao Paulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）
–10	Azores（アゾレス）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）

時差 +/–	タイムゾーン
–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–7	Athens, Helsinki, Ankara（アテネ、ヘルシンキ、アンカラ）
–6	Moscow, Nairobi, Riyadh, Kuwait, Manama（モスクワ、ナイロビ、リヤド、クウェート、マナマ）
–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

モニター設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖142）➔ モニター設定

以下の項目を設定します。

モニター表示設定

撮影、再生時の画面に表示される情報について設定します（📖148）。

画面の明るさ

画面の明るさを5段階で調節できます。初期設定は［**3**］です。

[モニター表示設定] について

画面に情報を表示するかどうかを設定します。

液晶モニターの表示内容については→**□6**

	撮影時	再生時
情報ON		
情報AUTO **(初期設定)**	[**情報ON**] と同じ情報を表示した後、操作しない状態が数秒経過すると [**情報OFF**] と同じ表示になります。操作すると、再び情報を表示します。	
情報OFF		
方眼+ **情報**AUTO	[**情報AUTO**] の表示内容に加えて、構図を決める際の参考となる格子線を表示します。動画撮影中は表示しません。	[**情報AUTO**] と同じです。
動画枠+ **情報**AUTO	[**情報AUTO**] の表示内容に加えて、動画撮影開始前に動画撮影範囲の枠を画面に表示します。	[**情報AUTO**] と同じです。

デート写し込み（日付の写し込み）

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□142）➔ デート写し込み

撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字（□100）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

DATE	**年・月・日**
	画像に日付を写し込みます。
DATE	**年・月・日・時刻**
	画像に日付と時刻を写し込みます。
OFF	OFF（**初期設定**）
	日付、時刻のどちらも写し込みません。

デート写し込みの設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- 以下の場合は日時を写し込めません。
  - シーンモードを［**パノラマ**］にしたとき
  - ［**連写**］（□79）の設定が［**高速連写 120 fps**］または［**高速連写 60 fps**］のとき
  - 動画撮影のとき
- ［**画像モード**］（□74）が VGA ［**640 × 480**］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像モードは PC ［**1024×768**］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［**地域と日時**］（□20、144）での設定と同じになります。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［**デート写し込み**］で日時を写し込んでいない画像でも、［**プリント指定**］（□99）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

手ブレ補正

MENU ボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□142）➔ 手ブレ補正

静止画および動画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時に起こりがちな手ブレを補正します。
三脚などでカメラを固定して撮影するときは、手ブレ補正を［**OFF**］にしてください。

(手)	**ON（初期設定）**
	手ブレを補正します。また、流し撮りでは、カメラが流し撮りの方向を自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。 たとえば、横方向に流し撮りするときには縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りするときには横方向の手ブレだけが補正されます。
OFF	OFF
	手ブレ補正をしません。

手ブレ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6、25）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

✔ 手ブレ補正についてのご注意

- カメラの電源をONにした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
- 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。

モーション検知

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□142）➔ モーション検知

静止画を撮影するときに被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

	AUTO（初期設定）
	カメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度を上げてシャッタースピードを速くします。 ただし、以下の場合はモーション検知は作動しません。 ・ フラッシュが強制発光のとき ・ 以下のシーンモードのとき 　- （夜景） 　- （逆光） 　- ［**風景**］ 　- ［**スポーツ**］ 　- ［**夜景ポートレート**］ 　- ［**打ち上げ花火**］ 　- ［**ペット**］ 　- ［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］ ・ 撮影モードが P、S、A、M のとき
OFF	OFF
	モーション検知をしません。

モーション検知の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。
カメラがブレを検知してシャッタースピードを速くしたときは、モーション検知表示は緑色に変わります。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

✔ モーション検知についてのご注意

- モーション検知を設定しても、撮影状況によっては手ブレや被写体ブレを完全に軽減できないことがあります。
- 極端にブレているときや暗すぎるときは、モーション検知が作動しないことがあります。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

AF補助光

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□142）➔ AF補助光

暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光の点灯/非点灯を設定します。

AUTO（初期設定）

暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光が届く距離は、広角側で約**4.0 m**、望遠側で約**1.5 m**です。ただし、［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。

OFF

AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがあります。

電子ズーム

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□142）➔ 電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

ON（初期設定）

光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズーム（□27）が作動します。

OFF

電子ズームは作動しません。

電子ズームについてのご注意

- 電子ズーム使用時は、画面中央でピント合わせを行います。
- 以下の場合は電子ズームは使えません。
  - 笑顔自動シャッターのとき（□36）
  - シーンモード（□41）が［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］または［**ペット**］のとき
  - ［**連写**］（□79）の設定が［**マルチ連写**］のとき
  - ［**AFエリア選択**］（□83）が［**ターゲット追尾**］または［**顔認識追尾**］のとき
- 電子ズーム作動中は、［**測光方式**］は［**中央部重点**］になります。

操作音

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□142）➔ 操作音

操作音について設定します。

設定音

設定音（電子音1回：設定完了時など）、合焦音（電子音2回：ピントが合ったとき）、警告音（電子音3回：禁止動作を行ったときなど）およびオープニング音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

シャッター音

シャッターをきったときのシャッター音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

操作音についてのご注意

- シーンモードの［**ペット**］では、［**ON**］に設定しても、設定音およびシャッター音は鳴りません。
- 連写時または動画の撮影時は、［**ON**］に設定しても、シャッター音は鳴りません。

オートパワーオフ

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□142）➔ オートパワーオフ

電源をONにしたまま、カメラを操作しない状態が続くと、節電のために液晶モニターが消灯して待機状態になります（□19）。
このメニューでは、待機状態になるまでの時間を設定します。
［**30 秒**］、［**1 分**］（初期設定）、［**5 分**］、［**30 分**］から選べます。

節電により液晶モニターが消灯したときは

- 待機状態では、電源ランプが点滅します。
- 待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。
- 電源ランプの点滅中は、以下の操作で液晶モニターが再点灯します。
  - 電源スイッチ、シャッターボタン、▶ボタン、または●（動画撮影）ボタンを押す。
  - モードダイヤルを回す。

オートパワーオフの設定について

以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。

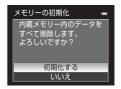
- メニュー表示中：3分（オートパワーオフを［**30 秒**］または［**1 分**］に設定した場合）
- スライドショー再生中：最大30分
- ACアダプター EH-62F接続中：30分

メモリー /カードの初期化（フォーマット）

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□142）
➔ メモリーの初期化/カードの初期化

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。
初期化すると、内蔵メモリーまたはSDカード内のデータはすべて削除されます。削除したデータは元に戻せません。必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［**メモリーの初期化**］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［**カードの初期化**］が表示されます。

✔ 初期化についてのご注意

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

言語/Language

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖142）➔ 言語/Language

画面に表示する言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

TV出力設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖142）➔ TV出力設定

テレビとの接続に必要な設定を行います。

ビデオ出力

ビデオの出力方式を［**NTSC**］と［**PAL**］から選べます。
［**NTSC**］と［**PAL**］はいずれも、アナログカラーテレビ放送の規格です。日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。

HDMI

HDMI出力時の画像の解像度を［**オート**］（初期設定）、［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から選べます。［**オート**］にすると、接続するハイビジョンテレビに対応した解像度を［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から自動で選んで出力します。

HDMI 機器制御

HDMI-CEC規格対応テレビにHDMIケーブルで接続したときに、テレビからの信号を受信するかどうかを設定します。［**ON**］（初期設定）にすると、テレビのリモコンを使って再生中の操作ができます。
→「テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）」（📖128）

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。
「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

パソコン接続充電

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□142）➔ パソコン接続充電

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続したときに、カメラ内のバッテリーを充電するかどうかを設定します（□134）。

AUTO（初期設定）
カメラを起動済みのパソコンに接続したときに、パソコンからの電力供給状態に応じて、カメラ内のバッテリーを充電します。
OFF
カメラをパソコンに接続しても、カメラ内のバッテリーを充電しません。

カメラとプリンターを接続してプリントするときのご注意

- カメラをPictBridge対応プリンターに接続しても、バッテリーの充電はできません。
- プリンターによっては、［**パソコン接続充電**］を［**AUTO**］にするとプリントできない場合があります。プリンターに接続して電源がONになってもカメラにPictBridge画面が表示されないときは、カメラの電源をいったんOFFにしてUSBケーブルを外し、［**パソコン接続充電**］を［**OFF**］に設定してから、接続をやり直してください。

目つぶり検出設定

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□142）➔ 目つぶり検出設定

以下の撮影モードで顔認識撮影（□85）したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

- 以下のシーンモードのとき
  - ［**おまかせシーン**］（□42）
  - ［**ポートレート**］（□46）
  - ［**夜景ポートレート**］の［**三脚撮影**］（□49）
- 撮影モードP、S、A、M（［**AFエリア選択**］が［**顔認識オート**］（□83）のとき）

ON

顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに［**目つぶり確認**］画面を表示します。
目を閉じて写っている可能性のある人物の顔が黄色い枠で囲まれます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます。
→「［**目つぶり確認**］画面の操作方法」（□158）

OFF（初期設定）

目つぶり検出をしません。

目つぶり検出設定についてのご注意

［**連写**］（□79）の設定が［**単写**］以外のとき、［**AEブラケティング**］（□82）を設定しているとき、または笑顔自動シャッター（□36）のときは、目つぶり検出をしません。

[目つぶり確認]画面の操作方法

[**目つぶり確認**]画面が表示されたときは、以下の操作ができます。
何も操作しないまま数秒経過すると、自動的に撮影画面に戻ります。

機能	ボタン	内容
目つぶり検出した顔を拡大表示する	**T**(Q)	ズームレバーを**T**(Q)方向に回します。
1コマ表示に戻る	**W**(⊞)	ズームレバーを**W**(⊞)方向に回します。
表示する顔を切り換える	(OK)	複数の人物の目つぶりを検出した場合、拡大表示中に◀ ▶を押すと、拡大表示する顔が切り換わります。
撮影した画像を削除する	🗑	🗑ボタンを押します。
撮影画面に戻る	(OK) / シャッターボタン	(OK)ボタンまたはシャッターボタンを押します。

設定クリアー

MENUボタンを押す ➔ ¥（セットアップメニュー）（□142）➔ 設定クリアー

［はい］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（□32）	自動発光
セルフタイマー（□35）/ 笑顔自動シャッター（□36）	OFF
マクロモード（□38）	OFF
クリエイティブスライダーの調整（□69）	オフ
露出補正（□39）	0.0

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（□41）	おまかせシーン
風景の撮影方法（□47）	通常撮影
夜景ポートレートの撮影方法（□49）	三脚撮影
料理モードの色合い（□53）	中央
パノラマの撮影方法（□55）	かんたんパノラマの標準 (180°)
スペシャルエフェクトの種類（□56）	ソフト

夜景メニュー

項目	初期設定
夜景（□44）	手持ち撮影

逆光メニュー

項目	初期設定
HDR（□45）	OFF

撮影メニュー

項目	初期設定
画像モード（□74）	12M 4000×3000
ホワイトバランス（□76）	オート
測光方式（□78）	マルチパターン
連写（□79）	単写
ISO感度設定（□81）	オート
AEブラケティング（□82）	OFF
AFエリア選択（□83）	オート
AFモード（□89）	シングルAF
調光補正（□89）	0.0

動画メニュー

項目	初期設定
動画設定（□123）	HD 1080p★（1920×1080）
AFモード（□125）	シングルAF

セットアップメニュー

項目	初期設定
オープニング画面（□143）	なし
モニター表示設定（□147）	情報AUTO
画面の明るさ（□147）	3
デート写し込み（□149）	OFF
手ブレ補正（□150）	ON
モーション検知（□151）	AUTO
AF補助光（□152）	AUTO
電子ズーム（□152）	ON
設定音（□153）	ON
シャッター音（□153）	ON
オートパワーオフ（□153）	1分
HDMI（□155）	オート
HDMI 機器制御（□155）	ON
パソコン接続充電（□156）	AUTO
目つぶり検出設定（□157）	OFF

その他

項目	初期設定
用紙設定（🕮137、138）	プリンターの設定
スライドショーのインターバル設定（🕮101）	3 秒

- ［**設定クリアー**］を行うと、ファイル番号の連番（🕮168）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー /SD カード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。ファイル番号の連番を「0001」に戻したいときは、内蔵メモリー /SDカード内の画像をすべて削除（🕮31）してから、［**設定クリアー**］を行ってください。
- 以下の項目は、［**設定クリアー**］を行っても初期設定には戻りません。
  撮影メニュー：［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルデータ（🕮77）
  セットアップメニュー：［**地域と日時**］（🕮144）、［**言語/Language**］（🕮155）、［**TV出力設定**］の［**ビデオ出力**］（🕮155）

バージョン情報

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（🕮142）➔ バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ

レンズのガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでガラス部分の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れないときは、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますのでご注意ください。

液晶モニター

ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラボディー

ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。
ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。以下の場所にカメラを保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50 ℃以上、または－10 ℃以下の場所
- 湿度が60%を超える場所

取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください
カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因になります。また、レンズに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください
カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください
極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● 保管する際には
カメラを長期間お使いにならないときは、必ずバッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは必ず電源をOFFにしてください
電源がONの状態で、バッテリーやACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくいことがあります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。ホコリやゴミなどが付着したときは、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

バッテリーについて

● 使用上のご注意

- 長時間お使いになったバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
- 周囲の温度が 0～40 ℃ の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能劣化や故障の原因となります。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- カメラやバッテリーチャージャーから取り外したときは、必ず付属の端子カバーを付けてください。

● 充電について

撮影の前に、充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんので、ご注意ください。

- 周囲の温度が 5～35 ℃ の室内で充電してください。
- このカメラを本体充電ACアダプター EH-69Pまたはパソコンに接続して充電する場合、バッテリーの温度が45～60 ℃のときは、充電できる容量が少なくなることがあります。バッテリーの温度が 0 ℃ 以下、60 ℃ 以上のときは、充電をしません。
- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください。バッテリー性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因となります。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、予備バッテリーをご用意ください。特に、日本国外の地域によっては入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

● 低温時のバッテリーについて

バッテリーは一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時にお使いになるときは、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

● 低温時には容量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーを用意する

消耗したバッテリーを低温時に使うと、カメラが作動しないことがあります。低温時の撮影には充分に充電したバッテリーと予備のバッテリーを用意してください。予備のバッテリーは保温し、交互にあたためながらお使いください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

● バッテリー接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがありますので、ご注意ください。汚れた接点は、乾いた布できれいに拭いてからお使いください。

● 残量について

残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

- バッテリーをお使いにならないときは、必ずカメラやバッテリーチャージャーから取り出してください。カメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れ続けることで過放電になり、使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。
- バッテリーは付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15～25 ℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。

● 寿命について

充分に充電したにもかかわらず、バッテリーの使用期間が極端に短くなってきたときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

● リサイクルについて

Li-ion 00

数字の有無と数値は電池によって異なります。

充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。接点部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へお持ちください。

別売アクセサリー

充電式バッテリー	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12※1
本体充電AC アダプター	本体充電ACアダプター EH-69P※1、2
充電器	バッテリーチャージャー MH-65P※2
ACアダプター	ACアダプター EH-62F※3 ＜EH-62Fの取り付け方＞ 1 2 3 ACアダプターのコードをACアダプターの溝に奥まで入れてからバッテリー室に入れてください。また、バッテリー /SDカードカバーを閉める前に、コードをバッテリー室の溝に奥まで入れてください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーやコードを破損するおそれがあります。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6※1
AVケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP16※1

※1 カメラご購入時に付属（→「簡単スタートガイド」3ページ）。

※2 日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。

※3 日本国内専用電源コード（AC 100 V 対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

推奨SDカード

下記のSDカードの動作を確認しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード※2	SDXC メモリーカード※3
SanDisk	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
TOSHIBA	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic	2 GB※1	4 GB、8 GB、12 GB、16 GB、24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
Lexar	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	-

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

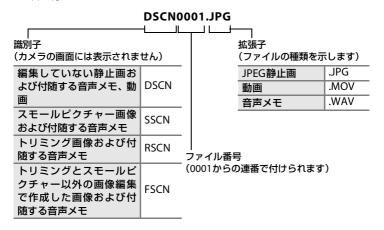
※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。

- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。その他のメーカー製のSDカードは、動作の保証をいたしかねます。

記録データのファイル名とフォルダー名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声メモには、以下のようにファイル名が付けられます。

識別子	
編集していない静止画および付随する音声メモ、動画	DSCN
スモールピクチャー画像および付随する音声メモ	SSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
トリミングとスモールピクチャー以外の画像編集で作成した画像および付随する音声メモ	FSCN

拡張子	
JPEG静止画	.JPG
動画	.MOV
音声メモ	.WAV

- ファイルを保存するフォルダーは、「フォルダー番号 + NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダー内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダーが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダー内のファイル番号が9999に達したときも新しいフォルダーが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。
- パノラマアシストモード（📖55）では、撮影のたびに「フォルダー番号+P_XXX」という名前のフォルダー（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。

- 内蔵メモリーとSDカードの間で記録データをコピーする場合（□107）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」：
    使用中のフォルダー（または次回の撮影で使われるフォルダー）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」：
    データはフォルダーごとにコピーされます。フォルダー名は「コピー先の最大フォルダー番号＋1」から連番で付けられます。
    ファイル名は変わりません。
- フォルダー番号が 999 のときにファイル数が 200 個またはファイル番号が 9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（□154）してください。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	📖
（点滅）	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	144
電池残量がありません	バッテリーの残量がありません。	バッテリーを充電または交換してください。	14、16
電池が高温です	バッテリーの温度が高温になっています。	電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。このメッセージが出ると5秒後に液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅を開始します。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	19
カメラが高温です。電源をOFFします	カメラの内部が高温になっています。自動的にカメラの電源がOFFになります。	カメラ内部の温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。	–
AF● （赤色点滅）	ピントを合わせることができません。	・ピントを合わせ直してください。 ・フォーカスロック撮影をお試しください。	28、29 29
記録中しばらくお待ちください	画像の記録中です。	記録が終了して警告表示が消えるまでお待ちください。	–
カードがロックされています	SDカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	23
このカードは使えません	SDカードへのアクセス異常です。	・動作確認済みのカードを使ってください。 ・カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 ・カードが正しく挿入されているか確認してください。	167 23 22
カードに異常があります			

表示	意味	対処法	
このカードは初期化されていません。初期化しますか？ はい いいえ	SDカードが、このカメラ用に初期化されていません。	初期化するとカード内のデータはすべて削除されるため、カード内に必要なデータが残っているときは、［**いいえ**］を選び、初期化する前にパソコンなどに保存してください。［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、SDカードを初期化できます。	23
メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	• 画像モードを変更してください。 • 不要な画像、動画を削除してください。 • SD カードを交換してください。 • SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	74 31、126 22 22
画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	154
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	SD カードを交換するか、内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	22、154、169
	オープニング画面に登録できない画像です。	以下の画像は登録できません。 • ［**画像モード**］を ［**3968 × 2232**］にして撮影した画像 • スモールピクチャーやトリミングで作成した画像サイズ 320 × 240 以下の画像 • かんたんパノラマで撮影した画像	74 116、117 57
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	31
パノラマ撮影に失敗しました	かんたんパノラマ撮影ができませんでした。	以下の場合、かんたんパノラマ撮影ができないことがあります。 • 一定時間経っても撮影が終わらないとき • カメラを動かす速度が速すぎるとき • パノラマ方向に対してまっすぐになっていないとき	57
パノラマ撮影に失敗しました まっすぐに動かしてください			
パノラマ撮影に失敗しました ゆっくりと動かしてください			

表示	意味	対処法	📖
ⓘ 音声を登録できません	音声メモを付けられない画像ファイルです。	• 動画には音声メモを付けられません。 • このカメラで撮影した画像を選んでください。	– 105
❶ この画像は編集できません	編集できない画像を画像編集しようとしました。	• 編集可能な条件を確認してください。 • 動画は画像編集できません。	108 –
❶ 動画記録できません	SDカードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	167
❶ 撮影画像がありません	撮影済みの画像がありません。	• 内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SDカードをカメラから取り出してください。 • 内蔵メモリーからSDカードにコピーする場合は、MENUボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。	22 107
❶ このファイルは表示できません	COOLPIX P300以外で作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。ファイルを作成または編集したパソコンなどで再生してください。	–
ⓘ このデータは再生できません			
❶ 表示できる画像がありません	スライドショーで表示できる画像がありません。	–	101
❶ このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	102
❶ 自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	146
ⓘ モードダイヤルの位置がずれています	モードダイヤルが正しい位置にセットされていません。	モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	40

表示	意味	対処法	📖
❶ フラッシュを上げてください	シーンモードが 🌄（逆光）の［**HDR**］が［**OFF**］または［**夜景ポートレート**］のときにフラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）レバーをスライドしてフラッシュをポップアップしてください。	33、45、49
❶ フラッシュが閉じています	おまかせシーンのときにフラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）レバーをスライドしてフラッシュをポップアップしてください。フラッシュを使いたくないときは、フラッシュを閉じたままでも撮影できます。	33、42
レンズエラー ❗	レンズの作動不良です。	電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	19
ⓘ 通信エラー	プリンターとの通信中にエラーが発生しました。	カメラの電源をOFFにして、USBケーブルの接続をやり直してください。	136
システムエラー ❗	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	19
ⓘ プリンターエラー：プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んでⓄⓚボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでⓄⓚボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでⓄⓚボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：用紙がありません	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでⓄⓚボタンを押し、プリントを再開してください。※	–

表示	意味	対処法	📖
ⓘ プリンターエラー：インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	［**キャンセル**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを中止してください。	–

※プリンターの説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

表示・設定・電源関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
カメラ内のバッテリーを充電できない	• 端子の接続状態を確認してください。 • バッテリー /SD カードカバーを閉じてください。	16 14
パソコンに接続してバッテリーを充電できない	• セットアップメニュー［**パソコン接続充電**］が［**OFF**］になっています。 • パソコンに接続して充電しているときは、カメラの電源を OFF にすると、バッテリーの充電も中止されます。 • パソコンに接続して充電しているときに、パソコンが休止状態（スリープ状態）になると、充電が中止され、カメラの電源が OFF になることがあります。 • パソコンの仕様、設定または状態によっては、パソコンに接続してカメラ内のバッテリーを充電できないことがあります。	156 134 134 –
電源をONにできない	• バッテリー残量がありません。 • 本体充電 AC アダプターでコンセントに接続しているときは、電源は ON にできません。 • バッテリー /SD カードカバーが開いていると、電源は ON にできません。	24 16 14
カメラの電源が突然切れる	• バッテリー残量がありません。 • 無操作状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • カメラの電源を ON にしたまま、本体充電 AC アダプターを接続すると電源が OFF になります。 • パソコンまたはプリンターとの接続中に USB ケーブルが外れると電源が OFF になります。USB ケーブルの接続をやり直してください。 • カメラの内部が高温になっています。温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。 • 低温下ではカメラやバッテリーが正常に動作しないことがあります。	24 153 16 130、132、136 – 164
液晶モニターに何も映らない	• 電源が入っていません。 • バッテリー残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。電源スイッチ、シャッターボタンまたは ▶ ボタンを押すか、モードダイヤルを回してください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。充電が完了するまでお待ちください。 • カメラとパソコンが USB ケーブルで接続されています。 • カメラとテレビが AV ケーブルまたは HDMI ケーブルで接続されています。	19 24 19、30 34 129 127

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターがよく見えない	• 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。	147 162
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に日時未設定マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00 00:00」、動画の撮影日時が「2011/01/01 00:00」と記録されます。セットアップメニュー［**地域と日時**］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くありません。定期的に日時の設定を行うことをおすすめします。	20、144 144
撮影情報や画像情報が表示されない	セットアップメニュー［**モニター設定**］の［**モニター表示設定**］が［**情報OFF**］になっています。	147
［**デート写し込み**］が選べない	セットアップメニュー［**地域と日時**］が設定されていません。	20、144
［**デート写し込み**］を有効にしたのに、日付が写し込まれない	• 日付を写し込めない撮影モードになっています。 • 動画には写し込みできません。	149 –
設定内容が初期状態に戻ってしまった	時計用電池が切れたため、設定がリセットされました。	145
液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅する	バッテリーの温度が高温になっています。電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	19
カメラの温度が高くなる	動画撮影などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがありますが、故障ではありません。	119

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影モードにできない	HDMIケーブルまたはUSBケーブルを外してください。	127、130、136
撮影できない	• 再生モードになっているときは、▶ ボタンまたはシャッターボタンを押してください。 • メニューが表示されているときは、MENU ボタンを押してください。 • バッテリー残量がありません。 • シーンモードが（逆光）の［**HDR**］が［**OFF**］または［**夜景ポートレート**］のときは、フラッシュをポップアップしてください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	30 11 24 33、45、49 34
ピントが合わない	• 被写体との距離が近すぎます。マクロモード、またはシーンモードの［**おまかせシーン**］、［**クローズアップ**］での撮影をお試しください。 • オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［**AF 補助光**］を［**AUTO**］にしてください。 • シャッターボタンを半押ししたときに、被写体が AF エリア内に入っていません。 • 電源を入れ直してください。	38、42、52 29 152 28、83 19
撮影時の画面に色の着いた縞模様が発生する	同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドなど）に色の着いた縞模様（干渉縞、モアレ）が現れることがありますが、故障ではありません。 記録される画像、動画にこの現象は残りません。 ただし、［**高速連写 120 fps**］と［**HS 120 fps (640×480)**］では、記録される画像、動画にこの現象が残ることがあります。	–
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • 手ブレ補正機能やモーション検知機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	32 150、151 79 35
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを（発光禁止）にしてください。	32
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • フラッシュが制限される他の機能の設定がされています。	32 41 90

付録、索引

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
電子ズームが使えない	• セットアップメニュー［**電子ズーム**］が［**OFF**］になっています。 • 以下の場合、電子ズームは使えません。 - 笑顔自動シャッターのとき - シーンモードが［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］または［**ペット**］のとき - 撮影メニュー［**連写**］が［**マルチ連写**］のとき - ［**AF エリア選択**］が［**ターゲット追尾**］または［**顔認識追尾**］のとき	152 36 42、46、49、55、56 79 84
［**画像モード**］が選べない	［**画像モード**］が制限される他の機能の設定がされています。	90
シャッター音が鳴らない	• セットアップメニュー［**操作音**］の［**シャッター音**］が［**OFF**］になっています。 • 撮影メニュー［**連写**］または［**AE ブラケティング**］が設定されています。 • シーンモードが［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］または［**ペット**］になっています。 • 動画撮影になっています。 • スピーカーをふさがないでください。	153 79、82 48、54、56 118 5
AF 補助光が点灯しない	セットアップメニュー［**AF 補助光**］が［**OFF**］になっています。［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。	152
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	162
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスまたは色合いが選ばれていません。	69、76
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低い ISO 感度にしてください。	 32 81
画像が暗すぎる	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • ISO 感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。フラッシュをポップアップして、シーンモードの ▣（逆光）にするかフラッシュモードを ⚡（強制発光）にしてください。	32 26 32 39 81 32、45
画像が明るすぎる	露出を補正してください。	39

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
赤目以外の部分が補正された	⚡◎（赤目軽減自動発光）またはシーンモードの［**夜景ポートレート**］の赤目軽減強制発光や赤目軽減スローシンクロ強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。［**夜景ポートレート**］以外の撮影モードで、フラッシュモードを⚡◎（赤目軽減自動発光）以外にして撮影してください。	32、49
美肌の効果が得られない	• 撮影条件によっては、美肌効果が適切に得られないことがあります。 • 4 人以上の顔を撮影した画像は、再生メニュー［**美肌**］をお試しください。	36 112
画像の記録に時間がかかる	以下の場合、画像の記録に時間がかかることがあります。 • ノイズ低減機能が作動したとき • フラッシュを ⚡◎（赤目軽減自動発光）にして撮影したとき • 以下のシーンモードで撮影したとき - （夜景）の［**手持ち撮影**］ - （逆光）の［**HDR**］が［**OFF**］以外 -［**風景**］の［**連写 NR 撮影**］ -［**夜景ポートレート**］の［**手持ち撮影**］ -［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］ • 撮影メニュー［**連写**］が［**高速連写 120 fps**］または［**高速連写 60 fps**］のとき	– 32 44 45 47 49 55 79
連写またはAEブラケティングの設定ができない、または使えない	連写またはAEブラケティングが制限される他の機能の設定がされています。	90

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダー名が変更されました。 • COOLPIX P300 以外で撮影した動画は再生できません。	– 118
画像の拡大表示ができない	• 動画やスモールピクチャー、320 × 240 以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。 • COOLPIX P300 以外で撮影した画像は、拡大表示できないことがあります。	– –
音声メモの録音や再生ができない	• かんたんパノラマで撮影した画像、または動画には音声メモを付けられません。 • COOLPIX P300 以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラで再生できません。	57、126 105

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像を編集できない	• 動画は編集できません。 • ［**画像モード**］を ［**3968 × 2232**］にして撮影した画像は編集できません。 • かんたんパノラマで撮影した画像は編集できません。 • 編集が可能な条件を確認してください。 • COOLPIX P300 以外で撮影した画像は編集できません。	– 74 – 108 –
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［**TV 出力設定**］の［**ビデオ出力**］または［**HDMI**］が正しく設定されていません。 • HDMI ミニ端子と USB/ オーディオビデオ出力端子の両方にケーブルが接続されています。 • 画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときはSDカードを取り出してください。	155 127 22
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transfer 2が自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • バッテリー残量がありません。 • USBケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • 対応 OS を確認してください。 • Nikon Transfer 2 が自動起動しない設定になっています。Nikon Transfer 2 については、ViewNX 2 のヘルプをご参照ください。	19 24 130 – 129 133
カメラをプリンターに接続しても、PictBridge起動画面が表示されない	PictBridge対応プリンターの種類によっては、［**パソコン接続充電**］を［**AUTO**］に設定していると、PictBridge起動画面が表示されず、プリントできない場合があります。［**パソコン接続充電**］を［**OFF**］にしてプリンターに接続し直してください。	156
プリントする画像が表示されない	• 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。 • 内蔵メモリーの画像をプリントするときは SD カードを取り出してください。	22 22
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」ができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	 137、138 –

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX P300

項目		仕様
型式		コンパクトデジタルカメラ
有効画素数		12.2メガピクセル
撮像素子		1/2.3型 原色CMOS、総画素数12.75メガピクセル
レンズ		光学4.2倍ズーム、NIKKORレンズ
	焦点距離	4.3–17.9mm（35mm判換算24–100 mm相当の撮影画角）
	開放F値	f/1.8–4.9
	レンズ構成	6群7枚
電子ズーム		最大2倍（35mm判換算で約200 mm相当の撮影画角）
手ブレ補正		レンズシフト方式
オートフォーカス		コントラスト検出方式
	撮影距離	• レンズ前約30 cm～∞（広角側）、約60 cm ～∞（望遠側） • マクロ AF 時は約 3 cm（広角側）～∞
	AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央、マニュアル（99点）、ターゲット追尾、顔認識追尾
液晶モニター		広視野角3型TFT液晶、反射防止コート付き、約92万ドット輝度調節機能付き（5段階）
	視野率（撮影時）	上下左右とも約100%（対実画面）
	視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
記録方式		
	記録媒体	内蔵メモリー（約 90 MB）、 SD/SDHC/SDXC メモリーカード
	画像ファイル	DCF、Exif 2.3、DPOF準拠
	ファイル形式	静止画： JPEG 音声メモ：WAV 動画：MOV（映像：H.264/MPEG-4 AVC、音声：AAC ステレオ）
画像サイズ（記録画素数）		• 12M（高画質）［**4000 × 3000★**］ • 12M［**4000 × 3000**］ • 8M［**3264 × 2448**］ • 5M［**2592 × 1944**］ • 3M［**2048 × 1536**］ • PC［**1024 × 768**］ • VGA［**640 × 480**］ • 16:9［**3968 × 2232**］
ISO感度（標準出力感度）		• ISO 160、200、400、800、1600、3200 • オート（ISO 160 ～ 1600） • 感度制限オート（ISO 160 ～ 400、160 ～ 800）

項目	詳細	仕様
露出		
	測光方式	マルチパターン測光（224分割）、中央部重点測光
	露出制御	プログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、AEブラケティング、モーション検知機能付き、露出補正（±2段の範囲で1/3段刻み）可能
シャッター		メカニカルシャッターとCMOS電子シャッターの併用
	シャッタースピード	オート撮影モード、シーンモード ・1/2000※1～1秒 ・1/2000※1～2秒（シーンモードの［**夜景**］の［**三脚撮影**］） ・4秒（シーンモードの［**打ち上げ花火**］） P、S、A、Mモード ・1/2000※2～8秒（Mモードで ISO 160時：ISO感度オート、感度制限オート時を含む） ・1/2000※1、2～4秒（P、S、Aモードで ISO 160、200、400固定時、Mモードで ISO 200、400固定時） ・1/2000※1、2～2秒（ISO 800固定時） ・1/2000※1、2～1秒（ISO 1600固定時、および、P、S、Aモードで ISO感度オート、感度制限オート時） ・1/2000※1、2～1/2秒（ISO 3200固定時） ・1/4000～1/60秒（高速連写） ※1 オート撮影、シーンモード、P、Aモード時、絞り値がf/8でズーム位置が最も広角側または1ステップ望遠側のときの最高速：1/1600秒 ※2 絞り値f/1.8時の最高速：1/1600秒
絞り		電磁駆動による6枚羽根虹彩絞り
	制御段数	14（1/3 EVステップ）
セルフタイマー		約10秒、約2秒
内蔵フラッシュ		
	調光範囲 （ISO感度設定オート時）	約0.5～6.5 m（広角側） 約0.5～2.5 m（望遠側）
	調光方式	モニター発光によるTTL自動調光
インターフェース		Hi-Speed USB
	通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力		NTSC、PALから選択可能
HDMI出力		オート、480p、720p、1080iから選択可能
入出力端子		オーディオビデオ出力/デジタル端子（USB）、 HDMIミニ端子（HDMI出力）
言語		日本語、英語の2言語

電源	・Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL12（リチウムイオン充電池：付属）× 1 個 ・AC アダプター EH-62F（別売）
充電時間	約4時間（本体充電ACアダプター EH-69P使用時、残量のない状態からの充電時間）
撮影可能コマ数(電池寿命)※	約240コマ（EN-EL12使用時）
動画撮影可能時間(電池寿命)	約1時間5分 （［**HD 1080p★(1920×1080)**］、EN-EL12 使用時）
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）
寸法（幅×高さ×奥行き）	約103.0×58.3×32.0 mm（突起部除く）
質量	約189 g（バッテリー、SDメモリーカード含む）
動作環境	
使用温度	0℃～40 ℃
使用湿度	85%以下（結露しないこと）

・仕様中のデータは、すべて常温（25 ℃）、リチャージャブルバッテリー EN-EL12をフル充電で使用時のものです。

※ 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2) ℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画像モード12M［**4000×3000**］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動します。

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL12

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	DC 3.7 V、1050 mAh
使用温度	0℃～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約32 × 43.8 × 7.9 mm
質量	約22.5 g（端子カバーを除く）

本体充電ACアダプター EH-69P

電源	AC 100～240 V、50/60 Hz、0.068～0.042 A
定格入力容量	6.8～10.1 VA
定格出力	DC 5.0 V、550 mA
使用温度	0℃～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約55 × 22 × 54 mm
質量	約55 g

使用説明書について

- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.3：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

索引

マーク・英数字

ア

カ

マ

ヤ

ラ

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご覧ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- 修理に出されるときに、SDカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を下記の当社ホームページでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/support/

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：	年　月　日
お買い上げ日：	年　月　日
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:	
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量： OS のバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：	 ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方に関するお問い合わせ

<ニコン カスタマーサポートセンター>

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話·公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30～18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499 に送信ください。

修理サービスのご案内

インターネットでの修理のお申し込み

下記 URL から「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みができます。宅配便などでお送りいただいた場合などの「修理金額見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/support/repair/

修理品のお引き取りを依頼される場合は

<ニコン ピックアップサービス>

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け·修理品のお引き取り、修理後のお届け·集金までを一括して提供するサービスです。

0120-02-8155

営業時間：9：00～18：00(年末年始12/29～1/4を除く毎日)
※左記のフリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。

製品に関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターへお願いいたします。
修理に関するお問い合わせは、下記の修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

<（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター>

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話·公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30～17：30（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan

FX1A02(10)

6MM04710-02